

# 慧空の「讚佛慈悲集」における引用文献の確認

遍立寺衆徒 大竹 功

仮 立 舎



## 慧空の「讚佛慈悲集」における引用文献の確認

遍立寺衆徒 大竹 功

### 引用確認凡例

- 木版刷り本文中の○印が引文を示す。(例外的に、慧空の自釈を○印と同等に扱うこともある)
  - 1-1 などの数字は、初めの数字が丁の番号を示す。「本」「末」に各々番号あり。
  - ハイフン以下の数字は、その丁の何番目の引文であるかを示す。
  - その直後は、**慧空が示す引文元・巻数等**を示す。
  - 次の段に、引文を確認する原典の、SAT での経・論・釈名と翻訳者名・巻数等を示す。  
慧空と巻数の表示が微妙に違う事、多くあり。
- 確認は、「SAT 大正新脩大藏經テキストデータベース 2015 版」による。  
確認の欄に使用してあるローマ字・数字の意味
  - T:『大正新脩大藏經』を示す。
  - 4 桁の数字:『大正新脩大藏經』での経・論・釈の固有番号。
  - 2 桁の数字:『大正新脩大藏經』での巻数。
  - 4 桁の数字:そのページ数字。
  - abc 区分:そのページの上段が a、中段が b、下段が c で表示。
  - 2 桁の数字:右からの行数。
- 「讚佛慈悲集」における引用経・論・釈の**青文字のみ**が、慧空の引用している所。  
引用文の前後や中間に適宜に、確認経・論・釈の元文字を黒文字で入れてある。  
つまり黒文字は、慧空の文では含まれていないもの。
- 慧空の「讚佛慈悲集」における「蜜」「密」「熏」「薰」等の混用は、「引用文献の確認」「讚佛慈悲集／書下し文」では、当該箇所での指摘は省略して、可能な限り「正字」に補正した。

## 「讚佛慈悲集」本 (「分別他力」「廣釋慈悲」) 引用確認

1-0 本文の導入部に、この本の三章のことが出ている。「一者分別他力」「二者廣釋慈悲」が「讚佛慈悲集 本」であり、「三者解報其恩」が「讚佛慈悲集 末」となる。そして、第一の「分別他力」のところに、他力の分別が出ている。そこの「**弥陀利益**」とあるは、「**弥陀別益**」の誤刻である。「書下し文」では「**弥陀別益**」に補正してある。最重要単語の誤刻を1文字であろうと「はめ込みで補正の木活字」を入れる事を、なぜしなかったのか。慧空の態度を私は残念に思う。

### 1-1 ○起信論生滅門云

大乘起信論義記(法藏撰) 卷中本

T1846\_.44.0256b04: 故。此識之中**以不覺熏本覺故。生諸染法**

T1846\_.44.0256b05: **流轉生死。以本覺熏不覺故。生諸淨法**

T1846\_.44.0256b06: **返流出纏成於始覺**(慧空は**而成本覺**)。依此二義遍生一切

この丁右・終りから二行目『起信論』を「○」はないが、「1-1」とす。

ここは、『大乘起信論』そのものからの引文ではない。「生滅門」未詳。

不生不滅真如之性～更互相熏 までは、出典・原文見未詳。それに近い文章は『大乘起信論義記』にはあるので、慧空の抄録か。

### 1-2 ○地持經云

華嚴經探玄記(法藏述) 卷第五是第三會盡

T1733\_.35.0197a03: 姓是類義。謂種類也。二出體有**二。一性種**

T1733\_.35.0197a04: **性。二習種姓** 性種有二門。一就有爲無常

菩薩地持經は疑問。検索に出てこない。『探玄記』の「二習種姓」は「二習種性」の誤刻と思う。あるいは

一乘要決(源信撰) 卷下

T2370\_.74.0363b01: 種性有差別。菩提種性。有**四種自性。一性**

T2370\_.74.0363b02: **種性。二習種性。乃至廣說。佛性論第四云。**

この二文、ともに「性有二種」を欠く。「性有二種一性種性二習種性」と引文の全文で検索すると「該当なし」となる。はて、引文原典は？

### 1-3 ○瑜伽論三十五云

成唯識論述記集成編(湛慧撰) 卷第十二本之三

T2266\_.67.0211b13: 七十五右如無始法爾六處相續文 **瑜伽論三十**

T2266\_.67.0211b14: **五四紙左云。云何種性。謂略有二種。一本性**

T2266\_.67.0211b15: **住種性。二習所成種性。本性住種性者。謂諸**

T2266\_.67.0211b16: **菩薩六處殊勝有如是相。從無始世展轉**

T2266\_.67.0211b17: **傳來。法爾所得。是名本性住種性。習所成**

T2266\_.67.0211b18: **種性者。謂先串習善根所得。**

「串習」は「せんじゅう」「かんじゅう」:「熏習」と同義。

引文上の「善根所得」の次の語の「乃至」で、大幅なページ移動している。移動先は、

成唯識論述記集成編(湛慧撰) 卷第四十九末之一

T2266\_67.0814b15: 名習所成種性。此中義意二種皆取。又此種

T2266\_67.0814b16: 性亦名種子。亦名爲界。亦名爲性文略纂第

慧空は「瑜伽論三十五」とするが、『成唯識論』からの引文ではない。引文自身がそれを示す。

#### 1-4 ○涅槃經二十八師子吼品云

大般涅槃經(曇無讖譯) 卷第二十八

T0374\_12.0530c15: 者正因緣因。衆生佛性爲是何因。善男子。衆

T0374\_12.0530c16: 生佛性亦二種因。一者正因。二者緣因。正因

T0374\_12.0530c17: 者謂諸衆生。緣因者謂六波羅蜜。

T0374\_12.0530c18: 師子吼言。世尊。我今定知乳有酪性何以故。

ここでの慧空の巻号指定は二十八なので、曇無讖譯を取る。

別經 大般涅槃經(慧嚴譯) 卷第二十六

T0375\_12.0775b27: 佛性爲是何因。善男子。衆生佛性亦二種因。

T0375\_12.0775b28: 一者正因。二者緣因。正因者謂諸衆生。緣

T0375\_12.0775b29: 因者謂六波羅蜜

T0375\_12.0775c01: 師子吼言。世尊。

別釈 一乘要決(沙門源信撰)

T2370\_74.0368a28: 其證。然涅槃經第二十八卷。師子吼菩薩

T2370\_74.0368a29: 云。善男子。衆生佛性亦二種因。一者正因。二

T2370\_74.0368b01: 者緣因。正因者。謂諸衆生。緣因者。謂六波

T2370\_74.0368b02: 羅蜜。 1-5 が繋がる 又云。緣因者。即是了因。世尊。譬如闇

この三つの引用元を確認してみると、『一乘要決』からの引用と見ていいだろう。しかしながら、あらためて『一乘要決』以外で1-5の引文をみても、冒頭に「二十六云」となっているので、これは「慧嚴譯」大般涅槃經を慧空が見ていることは明らかであろう。

#### 1-5 ○涅槃經二十六云

大般涅槃經(慧嚴譯) 卷第二十六

T0375\_12.0776b04: 見故。緣因者即是了因。世尊譬如闇中先

大般涅槃經(曇無讖譯) 卷第二十八

T0374\_12.0531b19: 何以故。欲明見故。緣因者即是了因。世尊。譬

このことから、『一乘要決』における『涅槃經』は曇無讖譯を採り、慧空があらためて『涅槃經』を引く時は慧嚴譯を採る傾向がありそう。「是」、慧空の引文で抜け。なぜ？

#### 2-1 ○天台云

一乘要決や新華嚴經論等を慧空が抄録か？

#### 2-2 ○宗鏡錄十八云

宗鏡錄(延壽集) 卷第十八

T2016\_48.0514c11: 能置哉。問。此亦衆生自家佛力。非他佛力也。

T2016\_48.0514c12: 答。佛地無自他。汝強謂自佛他佛者。衆生心

T2016\_48.0514c13: 不盡耳。問。若爾只共作一佛。不能各各自成

「不盡耳 廣説」に次いで「此義広～阿弥陀他力云々～永遮也」は、浄土宗「鎮西(聖光)批判」になっているので、

慧空の説だ。經典検索には掛からず。唐宋の時代の『宗鏡録』が「鎮西人師」を取り上げるなんていう事は、あるべくもない。

### 2-3 ○華嚴偈云

大方廣佛華嚴經 ( 實叉難陀譯 ) 卷第五十一の中

T0279\_10.0273a09: 佛智無依處 如空無所依  
T0279\_10.0273a10: 衆生種種樂 及諸方便智  
T0279\_10.0273a11: 皆依佛智慧 佛智無依止

### 2-4 ○大乘同性經云

大乘同性經 ( 闍那耶舍譯 ) 卷下

T0673\_16.0652b05: 覺。一切衆生作大利益。是如來力。令彼衆生  
T0673\_16.0652b06: 得知諸法 若罪若福若世間若出世間若有漏

### 2-5 ○入楞伽經三云

入楞伽經 ( 菩提流支譯 ) 卷第三

T0671\_16.0533c26: 故。大慧。依諸如來住持力故。山河石壁草  
T0671\_16.0533c27: 木園林及種種伎樂。城邑聚落宮殿屋宅。皆  
T0671\_16.0533c28: 能出於說法之聲。自然皆出伎樂之音。大  
T0671\_16.0533c29: 慧。何況有心者聾盲瘖瘂無量衆生離諸苦  
T0671\_16.0533c30: 惱。大慧。諸佛如來住持之力。無量利益安  
T0671\_16.0534a01: 樂衆生。大慧菩薩復白佛言。世尊。世尊何故

### 3-1 ○又云

入楞伽經 ( 菩提流支譯 ) 卷第三

T0671\_16.0534a07: 爲諸菩薩作住持力。大慧。若諸如來不爲  
T0671\_16.0534a08: 菩薩作住持力者。墮諸外道聲聞辟支佛  
T0671\_16.0534a09: 魔事故。不得阿耨多羅三藐三菩提。是故

### 3-2 ○方等總持經云

大乘方廣總持經 ( 毘尼多流支譯 ) 一卷

T0275\_09.0380c18: 一切無量阿僧祇諸佛。是故善男子。菩薩未  
T0275\_09.0380c19: 來於五濁世中。得陀羅尼三昧者。一切皆是  
T0275\_09.0380c20: 佛之威力。是故善男子。若有誹謗其法師者。  
T0275\_09.0380c21: 即爲謗佛等無有異。善男子。佛滅度後若有  
T0275\_09.0380c22: 法師。善隨樂欲爲人說法。能令菩薩學大乘  
T0275\_09.0380c23: 者。及諸大衆有發一毛歡喜之心乃至暫下  
T0275\_09.0380c24: 一滴 ( 滴 ) 淚者。當知皆是佛之神力。

### 3-3 ○又云

大乘方廣總持經 ( 毘尼多流支譯 ) 一卷

T0275\_.09.0382b29: 殊師利。若聲聞說法若菩薩說法。當知皆是  
T0275\_.09.0382c01: 如來威神護念力故。令諸菩薩等作如是說。

### 3-4 ○十住毘婆沙論十一云

十住毘婆沙論 (龍樹造 鳩摩羅什譯) 卷第十一

T1521\_.26.0081c22: 曰。當以假喻說。若一切衆生智慧勢力皆如  
T1521\_.26.0081c23: 辟支佛。是諸衆生若不承佛意。欲度一人  
T1521\_.26.0081c24: 無有是處。若是諸人說法時。乃至不

### 3-5 ○大集經十五云

大方等大集經 (曇無讖譯) 卷第十七

T0397\_.13.0117b13: 海。亦能度化一切衆生。善男子。是故當知  
T0397\_.13.0117b14: 一切菩薩所得辯說。能以利益衆生。皆是如  
T0397\_.13.0117b15: 來神力。寶德復問。善男子。諸如來辯。可得轉

### 3-6 ○薩遮尼乾子經一云

大薩遮尼乾子所說經 (菩提留支譯) 卷第一

T0272\_.09.0319b10: 不入此法。諸善知識所不攝者。不入此法。不  
T0272\_.09.0319b11: 爲諸佛住持衆生。不聞此法。除諸如來加力  
T0272\_.09.0319b12: 持者。能聞此法。能信此法。無有是處 爾時

### 3-7 ○華嚴經六云

大方廣佛華嚴經 (佛馱跋陀羅譯) 卷第六

T0278\_.09.0433b27: 若成殊勝妙解脫 則爲一切佛所護  
T0278\_.09.0433b28: 若爲一切佛所護 則生無上菩提心  
T0278\_.09.0433b29: 若生無上菩提心 則能勤修佛功德

### 3-8 ○報恩經七云

大方便佛報恩經 (訳者未詳) 卷第七

T0156\_.03.0166a07: 我悉能令一切具足。智幢菩薩復作是言。我  
T0156\_.03.0166a08: 能惠施衆生大智。法幢菩薩乃作是言。

慧空の文 我能惠施衆生大智辨 とあるが「辨」は 慧空加筆か。

### 3-9 ○寶性論一云

究竟一乘寶性論 (勒那摩提譯) 卷第一

T1611\_.31.0819c13: 次說地譬喻。偈言  
T1611\_.31.0819c14: 一切諸草木 依止大地生  
T1611\_.31.0819c15: 地無分別心 而增長成就  
T1611\_.31.0819c16: 衆生心善根 依止佛地生  
T1611\_.31.0819c17: 佛無分別心 而增廣成就

### 3-10 ○佛地論五云

佛地經論 (親光 (等) 造 玄奘譯) 卷第五 釋習相應品第三之餘卷三十六

T1530\_.26.0312c25: 修所成。任運爲他智等善法增上緣故。令他

T1530\_.26.0312c26: 身中智等善法易得生長。是故經言。一切衆

T1530\_.26.0312c27: 生所有善法。及 殊勝果。皆是如來慈悲願力

T1530\_.26.0312c28: 增上所起。

T1530\_.26.0312c29: 經曰。又如圓鏡非處障質影像起緣。如是如

慧空の文に 皆是如來慈悲願力 爲增上緣而所獲得と下線あるものは慧空加筆か。

### 4-1 ○華嚴經十三云

大方廣佛華嚴經 (佛馱跋陀羅譯) 卷第十二

T0278\_.09.0475a21: 是等無邊無盡信藏。則能乘如來乘。此菩薩

T0278\_.09.0475a22: 成就如是等無量無邊信。不退轉信。不亂

T0278\_.09.0475a23: 信。不壞信。不著信。有根信。隨順聖人信。如

T0278\_.09.0475a24: 來家 (聚) 性信。則能護持一切佛法。長養一切菩

T0278\_.09.0475a25: 薩善根。隨順一切如來善根。從一切佛善方

T0278\_.09.0475a26: 便生。是名菩薩摩訶薩無盡信藏。菩薩住

慧空の文「聖人信如來聚性信」は、家を聚と慧空の書き換えか？

### 4-2 上依經下云

佛說無上依經 (眞諦譯) 卷下

T0669\_.16.0477a20: 世尊宣說眞自法 令人自行教化他

T0669\_.16.0477a21: 若使如來不出世 惟 (唯) 有苦受逼其身

T0669\_.16.0477a22: 一切世間惟惡道 但聞叫喚大音聲

T0669\_.16.0477a23: 六道受苦悉無異 皆因煩惱所纏裹

○印はないが、4-2とする。慧空は「惟」を「唯」とす。

### 4-3 ○大論三十六云

大智度論 (龍樹造 鳩摩羅什譯) 釋習相應品第三之餘卷三十六

T1509\_.25.0323c13: 乘道有。二乘道從佛有。佛因菩薩有。若

T1509\_.25.0323c14: 無菩薩說善法者。世間無有天道人道阿

T1509\_.25.0323c15: 修羅道。無有樂受不苦不樂受。但有苦受

T1509\_.25.0323c16: 常有地獄啼哭之聲。菩薩如是大利益故。釋習相翳

### 4-4 ○又三十五云

大智度論 (龍樹造 鳩摩羅什譯) 釋報應品第二卷三十五

T1509\_.25.0315a09: 悉皆無常。唯佛出世能令得常樂涅槃。以

T1509\_.25.0315a10: 世間樂涅槃樂皆由佛菩薩得。是故歡喜。

### 4-5 ○大集經九云

大方等大集經 (曇無讖譯) 卷第十



T0397\_13.0060b23: 多利益無量衆生。何以故。一切衆生因大乘  
T0397\_13.0060b24: 故。得人天樂及涅槃樂。世尊。夫大乘者。何

#### 4-6 ○大論三十六云

大智度論（龍樹造 鳩摩羅什譯） 釋習相應品第三之餘卷三十六

T1509\_25.0323b23: 現於世。論問曰。以菩薩因緣故有善法  
T1509\_25.0323b24: 於世可爾。刹利大姓婆羅門大姓居士大家。  
T1509\_25.0323b25: 若世無菩薩亦有此貴姓。云何言皆從菩  
T1509\_25.0323b26: 薩生。答曰。以菩薩因緣故。世間有五戒十  
T1509\_25.0323b27: 善八齋等。是法有上中下。上者得道。中者生  
T1509\_25.0323b28: 天。下者爲人。故有刹利大姓 乃至 居  
T1509\_25.0323b29: 士大家。問曰。若世無菩薩。世間亦有五戒十  
T1509\_25.0323c01: 善八齋刹利等大姓。答曰。菩薩受身種種。或  
T1509\_25.0323c02: 時受業因緣身。或受變化身。於世間教化。  
T1509\_25.0323c03: 說諸善法 及世界法王法世俗法出家（世）法在  
T1509\_25.0323c04: 家法種類法居家法。憐愍衆生護持世界。  
T1509\_25.0323c05: 雖無菩薩法常行世法。以是因緣故皆  
T1509\_25.0323c06: 從菩薩有。問曰。菩薩清淨行大慈悲。云何  
T1509\_25.0323c07: 說世俗諸雜法。答曰。有二種菩薩。一者行  
T1509\_25.0323c08: 慈悲直入菩薩道。二者敗壞菩薩。亦有悲  
T1509\_25.0323c09: 心治以國法法無所貪利。雖有所惱所安  
T1509\_25.0323c12: 因緣故皆由菩薩有。世間諸富貴皆從二  
T1509\_25.0323c13: 乘道有。二乘道從佛有。佛因菩薩有。若

#### 5-1 ○大品歎度品云

大智度論（龍樹造 鳩摩羅什譯） 釋往生品第四之下卷四十

T1509\_25.0354b29: 阿修羅。應當禮敬供養。何以故。因菩薩來故。  
T1509\_25.0354c01: 出生人道天道刹利大姓婆羅門大姓居士大  
T1509\_25.0354c02: 家。轉輪聖王四天王天。乃至阿迦尼吒天。出  
T1509\_25.0354c03: 生須陀洹乃至阿羅漢辟支佛諸佛。因菩薩  
T1509\_25.0354c04: 來故。世間便有飲食衣服臥具房舍燈燭摩  
T1509\_25.0354c05: 尼真珠毘琉璃珊瑚金銀等諸寶物生。舍利  
T1509\_25.0354c06: 弗。世間所有樂具。若人中若天上若離欲樂。  
T1509\_25.0354c07: 是一切樂具皆由菩薩有。何以故。舍利弗。菩  
T1509\_25.0354c08: 薩摩訶薩行菩薩道時。住六波羅蜜。自行布  
T1509\_25.0354c09: 施亦以布施成就衆生。乃至自行般若波羅  
T1509\_25.0354c10: 蜜。亦以般若波羅蜜成就衆生。舍利弗。是故  
T1509\_25.0354c11: 菩薩摩訶薩爲安樂一切衆生故。出現於世  
T1509\_25.0354c12: 論問曰。五千比丘中上有千餘上座。所謂

引文の「大品」は誤。「大論」が正。これは「書下し文」では補正した。

ここが出ている經典は釋往生品第四之下卷四十だが、そこで取り扱われている章建てに、「摩訶般若波羅蜜經歎

度品第五」があり、そのことによって引文の冒頭に「大智度論歎度品」と出している。「○○○云」という言い方で、必ずしも正確に引文元が示されているわけではない。

この引文の中で「乃至」が4ヶ所あるが、上記「衆生。乃至自行般若～」以外の3「乃至」は、惠空の編集上のものである。

## 5-2 ○大論四十釋云

大智度論(龍樹造 鳩摩羅什譯) 釋往生品第四之下卷四十

T1509\_25.0355b08: 尼吒。須陀洹乃至諸佛皆如先說。問曰。  
T1509\_25.0355b09: 若因菩薩有飲食等及諸寶物。人何以力作  
T1509\_25.0355b10: 求生受諸辛苦乃得。答曰。飢餓劫時人雖  
T1509\_25.0355b11: 設其功力亦無所得。以衆生罪重故。菩  
T1509\_25.0355b12: 薩世世讚歎布施持戒善心。是三福因緣故。  
T1509\_25.0355b13: 有上中下。上者念便即得。中者人中尊重供  
T1509\_25.0355b14: 養自至。下者施功力乃得。以是故說因菩  
T1509\_25.0355b15: 薩得實而不虛。樂因緣甚多不可稱計。今  
T1509\_25.0355b16: 佛略說天樂人樂涅槃樂皆由菩薩得。此  
T1509\_25.0355b17: 中佛自說。菩薩住六波羅蜜自行布施。亦  
T1509\_25.0355b18: 教衆生行布施。雖衆生自行布施。無菩薩  
T1509\_25.0355b19: 教導則不能行。問曰。除解脫樂此二種樂。  
T1509\_25.0355b20: 是衆生生結使處。貪欲因緣故生患。菩薩  
T1509\_25.0355b21: 何以教導此結使因緣。答曰。菩薩無咎。所  
T1509\_25.0355b22: 以者何。菩薩慈悲清淨心。與衆生樂因緣  
T1509\_25.0355b23: 教修福事。若衆生不能清淨行福德者。  
T1509\_25.0355b24: 於菩薩何咎。如人好心作井。盲人墮中而  
T1509\_25.0355b25: 死。作者無罪。如人設好食施人。不知量  
T1509\_25.0355b26: 者多食致患。施者無罪。復次若諸佛菩薩。  
前の5-1の次の頁からの引文で、引用巻号は同じ。

引文に続いて「已上第二十六亦有此說」と小文字にて有り。不明。

## 6-1 慧空の私釈(特定引文なしとする)

## 6-2 ○涅槃經十四云

大般涅槃經(慧嚴譯) 卷第十四

T0375\_12.0695a18: 妄耶。善男子。或有衆生貪於財貨。我於其  
T0375\_12.0695a19: 人自化其身作轉輪王。於無量歲隨其所  
T0375\_12.0695a20: 須種種供給。然後教化令其安住阿耨多羅  
T0375\_12.0695a21: 三藐三菩提。若有衆生貪著五欲。於無量  
T0375\_12.0695a22: 歲以妙五欲充足其情。然後勸化令其  
T0375\_12.0695a23: 安住阿耨多羅三藐三菩提。若有衆生榮豪

大般涅槃經(慧嚴譯)(曇無讖譯)ともに「充足其情」。引文では「充滿其願」。『涅槃經』十四と引文冒頭にあるので、大般涅槃經(曇無讖譯)は該当せず。

### 6-3 ○大經上法藏願云

佛說無量壽經（康僧鎧譯）卷上

T0360\_12.0269b07: 佛告阿難。爾時法藏比丘。說此願已而說

T0360\_12.0269b08: 頌曰

T0360\_12.0269b10: 斯願不滿足 誓不成正覺

T0360\_12.0269b11: 我於無量劫 不爲大施主

T0360\_12.0269b12: 普濟諸貧苦 誓不成正覺

### 6-4 ○大集月藏分第十云

大方等大集經（曇無讖譯）卷第五十六 月藏分第十二

T0397\_13.0381a29: 爾時世尊告上首彌勒及賢劫中一切菩薩摩

T0397\_13.0381b01: 訶薩言。諸善男子。我昔行菩薩道時。曾於過

T0397\_13.0381b02: 去諸佛如來作是供養。以此善根與我作於

T0397\_13.0381b03: 三菩提因。我今憐愍諸衆生故。以此報果

T0397\_13.0381b04: 作三分。留一分自受。第二分者。於我滅後與

T0397\_13.0381b05: 禪解脫三昧堅固相應聲聞令無所乏。第三

T0397\_13.0381b06: 分者。與彼破戒讀誦經典相應聲聞正法像

T0397\_13.0381b07: 法剃頭著袈裟者令無所乏。彌勒。我今復以

T0397\_13.0381b08: 三業相應諸聲聞衆比丘比丘尼優婆塞優婆

T0397\_13.0381b09: 夷。寄付汝手勿令乏少孤獨而終。及以正法

T0397\_13.0381b10: 像法毀破禁戒著袈裟者。寄付汝手勿令彼

T0397\_13.0381b11: 等於諸資具乏少而終。亦勿令有旃陀羅王

### 7-1 ○又按佛持論第六

佛地經論（親光造 玄奘譯）卷第六

T1530\_26.0318b17: 論曰。成所作智。應知。成立如來化身。此復

T1530\_26.0318b18: 三種。一者身化。二者語化。三者意化。第一

T1530\_26.0318b19: 身化復有三種。一現神通化。二現受生化。三

T1530\_26.0318b20: 現業果化。第二語化亦有三種。一慶慰語化。

T1530\_26.0318b21: 二方便語化。三辯揚語化。第三意化復有四

T1530\_26.0318b22: 種。一決擇意化。二造作意化。三發起意化。四

T1530\_26.0318b23: 受領意化。成所作智能起如是三業化用。此

T1530\_26.0318b24: 化三業即是化身。應知此中以用顯體。非此

佛持論→佛地經論 が正しい。

引文の最後の「三業十化無方無碍」は『論』から見えない。大幅な慧空の編集に依る、ということか。

### 7-2 ○彼論七云

佛地經論（親光造 玄奘譯）卷第七

T1530\_26.0325a09: 便業。以能任運與一切業爲方便故。身化三

T1530\_26.0325a10: 種。一自身相應。謂化自身爲輪王等種種形

T1530\_.26.0325a11: 類。及現種種諸本生事。二他身相應。謂化魔  
T1530\_.26.0325a12: 王爲佛身等。變舍利子爲天女等。寄他身上  
T1530\_.26.0325a13: 示現種種變化形類。三非身相應。謂現大地  
T1530\_.26.0325a14: 爲七寶等。或現無量佛化身等。或放光明照  
T1530\_.26.0325a15: 無邊界。如是等類。離自他身別現化作。情非  
T1530\_.26.0325a16: 情色種種形類。動地放光風香等事。皆爲利  
T1530\_.26.0325a17: 樂諸有情故。一切皆名佛化身業。如是語化

### 7-3 ○華嚴經說

華嚴經旨歸 (法藏述) 西崇福寺沙門法藏 「說經佛第三」

T1871\_.45.0590c26: 說經佛第三  
T1871\_.45.0590c27: 問說此經佛盧舍那身。既在如前無盡時處。  
(6 行略)  
T1871\_.45.0591a05: 全現故。一切菩薩不能思故。今顯此義略辨  
T1871\_.45.0591a06: 十重。一用周無礙。二相遍無礙。三寂用無礙。  
T1871\_.45.0591a07: 四依起無礙。五眞應無礙。六分圓無礙。七因  
T1871\_.45.0591a08: 果無礙。八依正無礙。九潛入無礙。十圓通無  
T1871\_.45.0591a09: 礙。初用周無礙者。於上念劫刹塵等處。盧舍  
(34 行略)  
T1871\_.45.0591b15: 雲及行。經中佛眉間出勝音等塵數菩薩。八  
T1871\_.45.0591b16: 依正無礙者。謂此身雲則作一切器世間。經

### 7-4 ○經第七偈云

大方廣佛華嚴經 (佛馱跋陀羅譯) 卷第七

T0278\_.09.0439b07: 尚能示現難思議 況大饒益自在力  
T0278\_.09.0439b08: 現作日月遊虛空 普照十方諸世界  
T0278\_.09.0439b09: 或作河池井泉水 或作大海衆寶器  
「宗鏡錄十六卷具之」と引文の最後にあるものの、検索に掛らず。

### 7-5 ○百福經說

大乘百福莊嚴相經 (地婆訶羅再譯) 一卷

T0662\_.16.0332a16: 如是如來手足等中隨相之文有八十種。何  
(20 行略)  
T0662\_.16.0332b08: 像。五十二者粉米像。五十三者麩麥像。五十  
T0662\_.16.0332b09: 四者藥草像。五十五者靈茅像。五十六者花  
T0662\_.16.0332b10: 樹像。五十七者果樹像。五十八者金翅鳥像。  
引文文中の「乃至」の位置は、かなり偏っている。

### 7-6 ○佛地論又云

佛地經論 (親光造 玄奘譯) 卷第七

T1530\_.26.0325a17: 樂諸有情故。一切皆名佛化身業。如是語化

T1530\_.26.0325a18: 亦有三種。一自身相應。謂佛自身化現梵音。  
 T1530\_.26.0325a19: 遍告無邊諸世界等。種種語業。二他身相應。  
 T1530\_.26.0325a20: 謂令聲聞大弟子等。以佛梵音宣說大乘甚  
 T1530\_.26.0325a21: 深法等。是故聲聞諸菩薩等說。非已分甚深  
 T1530\_.26.0325a22: 妙法。皆是如來變化所作。非彼自力。三非身  
 T1530\_.26.0325a23: 相應。謂化山海草木等類。乃至虛空。亦出音  
 T1530\_.26.0325a24: 聲說大法等。如是皆名變化語業。心化唯二。  
 T1530\_.26.0325a25: 一自身相應。謂自心上化現種種。心及心法  
 T1530\_.26.0325a26: 影像差別。二他身相應。謂令他心亦現種種。  
 T1530\_.26.0325a27: 心及心法影像差別。此並相分似見分現。有  
 T1530\_.26.0325a28: 義定力能令自心解非分法。名化自心。加被  
 T1530\_.26.0325a29: 有情令愚昧者解深細法。令失念者得正憶  
 T1530\_.26.0325b01: 念。名化他心。然心無化。無形質故。如論說  
 引文中に見える「乃至」は、引文元にある「乃至」。

8-0 八丁右・八行目「私云」は慧空の私釈。

### 8-1 ○心地觀經 三云

大乘本生心地觀經 (般若譯) 卷第三

T0159\_.03.0306a17: 稱為世間良福田 是名僧寶大恩德  
 T0159\_.03.0306a18: 如我所說四恩義 是名能造世間因  
 T0159\_.03.0306a19: 一切萬物從是生 若離四恩不可得  
 T0159\_.03.0306a20: 譬如世間諸色塵 能造四大而得生

引文中の「世間田」は「世間因」の誤刻。書下し文では「因」と補正した。

### 8-2 ○自鏡録懷信法師云

釋門自鏡録 (懷信述) 序

T2083\_.51.0802a23: 不知耕獲之頓弊。不識鼎飪之劬勞。長六尺  
 T2083\_.51.0802a24: 之軀。全百年之命者。是誰所致乎。則我本師  
 T2083\_.51.0802a25: 之願力也。余 (予) 且約計五十之年。朝中飲食。蓋  
 T2083\_.51.0802a26: 費三百餘碩矣。寒暑衣藥。蓋費二十餘萬矣。  
 T2083\_.51.0802a27: 爾其高門邃宇。碧砌丹楹。軒乘僕豎之流。机  
 T2083\_.51.0802a28: 案床褥之類。所費又無涯矣。或復無明暗  
 T2083\_.51.0802a29: 起。邪見橫生。非法棄用。非時飲噉。所費又難  
 T2083\_.51.0802b01: 量矣。此皆出自他力。資成我用。與夫汲汲之  
 T2083\_.51.0802b02: 位。豈得同年而較其苦樂哉。是知大慈之教

『釋門自鏡録』は唐の時代の長安近郊の「藍谷」に住む懷信法師の著述。

版本5行目下の「廣説」より後は、慧空の自釈ならん。

### 9-1 ○心地觀經三云

大乘本生心地觀經 (般若譯) 卷第三

T0159\_03.0305a16: 菩提妙果不難成 眞善知識實難遇  
 T0159\_03.0305a17: 一切菩薩修勝道 四種法要應當知  
 T0159\_03.0305a18: 親近善友爲第一 聽聞正法爲第二  
 T0159\_03.0305a19: 如理思量爲第三 如法修證爲第四  
 T0159\_03.0305a20: 十方一切大聖主 修是四法證菩提  
 T0159\_03.0305a21: 汝諸長者大會衆 及未來世清信士

9-2 『大集十一』は、大方等大集經（曇無讖譯） 卷第十一のことか。

『涅槃二十三』は、大般涅槃經（慧嚴譯） 卷第二十三のことか。

『華嚴行願品』は、大方廣佛華嚴經（般若譯） 多くの巻あり。入不思議解脱境界普賢行願品のことか。

これら三經については「広説之」で、具体的な引文はされていない。

### 9-3 ○涅槃經三十二云

大般涅槃經（慧嚴譯）

T0375\_12.0816a05: 大般涅槃經卷第三十二

T0375\_12.0816a06: 宋代沙門惠嚴等依泥洹經加之

T0375\_12.0816a07: 迦葉菩薩品之二

T0375\_12.0821a04: 經中説。一切梵行因善知識。一切梵行因雖

T0375\_12.0821a05: 無量。説善知識則已攝盡。如我所説。一切

### 9-4 ○以是和尚法事讚云

轉經行道願往生淨土法事讚（善導集記）＝安樂行道轉經願生淨土法事讚 卷下

T1979\_47.0437a28: 般舟三昧樂願往生 悲喜交流深自慶無量樂

T1979\_47.0437a29: 不因釋迦佛開悟願往生 彌陀名願何時間無量樂

T1979\_47.0437b01: 般舟三昧樂願往生 荷佛慈恩實難報無量樂

### 9-5 ○又云

轉經行道願往生淨土法事讚（善導集記）＝西方淨土法事讚 卷上

T1979\_47.0424c12: 相因毒火臨時還發。仰惟大悲恩重等潤身

T1979\_47.0424c13: 田。智慧冥加道芽增長。慈悲方便視教隨宜。

T1979\_47.0424c14: 勸念彌陀歸乎淨土。地則衆珍雜間光色競

### 9-6 ○又云

轉經行道願往生淨土法事讚（善導集記）＝安樂行道轉經願生淨土法事讚 卷下

T1979\_47.0437b01: 般舟三昧樂願往生 荷佛慈恩實難報無量樂

T1979\_47.0437b02: 四十八願懇懃喚願往生 乘佛願力往西方無量樂

### 10-1 ○般舟讚云

依觀經等明般舟三昧行道往生讚（善導撰） 別称『般舟讚』一卷

T1981\_47.0448a21: 比丘僧善導撰

T1981\_47.0448a22: 敬白。一切往生知識等大須慚愧。釋迦如來

T1981\_47.0448a23: 實是慈悲父母。種種方便發起我等無上信  
T1981\_47.0448a24: 心。 又說種種方便教門非一。但爲我等倒見  
T1981\_47.0448a25: 凡夫。若能依教修行者。則門門見佛得生  
T1981\_47.0448a26: 淨土。若見聞有人行善者。即以善助之。若見

### 10-2 ○又云

般舟讚 (善導撰) 一卷

T1981\_47.0449b02: 不孝父母罵眷屬願往生 地獄安身無出期無量樂  
T1981\_47.0449b03: 曠劫已來沈苦海願往生 西方要法未曾聞無量樂

### 10-3 ○又云

般舟讚 (善導撰) 一卷 類似が別に有り。『教行信証』引文はこちら

T1981\_47.0452b13: 本住他方化生衆願往生 慶得難遭希有法無量樂  
T1981\_47.0452b14: 得免娑婆長劫難願往生 特蒙知識釋迦恩無量樂  
T1981\_47.0452b15: 種種思量巧方便願往生 選得彌陀弘誓門無量樂

### 10-4 ○又云

般舟讚 (善導撰) 一卷

T1981\_47.0455b08: 般舟三昧樂願往生 得脫三塗知識恩無量樂  
T1981\_47.0455b09: 若非知識教稱佛願往生 如何得入彌陀國無量樂

### 10-5 ○又云

般舟讚 (善導撰) 一卷

T1981\_47.0455c13: 自作神通入彼會願往生 憶本娑婆知識恩無量樂  
T1981\_47.0455c14: 若非釋迦勸念佛願往生 彌陀淨土何由見無量樂  
T1981\_47.0455c15: 心念香華遍供養願往生 長時長劫報慈恩無量樂

### 10-6 ○玄義分云

觀無量壽經疏 (善導集記) 卷第一・玄義分

T1753\_37.0246b13: 況我信外輕毛敢知旨趣。仰惟釋迦此方發  
T1753\_37.0246b14: 遣。彌陀即彼國來迎。彼喚此遣。豈容不去  
T1753\_37.0246b15: 也。唯可勤心奉法畢命爲期。捨此穢身。

### 10-7 ○散善義云

觀無量壽經疏 (善導集記) 卷第四・散善義

T1753\_37.0273b04: 曠劫淪迴迷倒自纏。無由解脫。仰蒙釋迦  
T1753\_37.0273b05: 發遣指向西方。又藉彌陀悲心招喚。今信  
T1753\_37.0273b06: 順二尊之意。不顧水火二河。念念無遺。 乘  
T1753\_37.0273b07: 彼願力之道。捨命已後得生彼國。與佛相

### 10-8 大集賢護分五云 (○なければども10-8 とす)

大方等大集經賢護分（闍那崛多譯） 卷第五

T0416\_.13.0896c14: 物而不奉師。賢護。其求法者。承事法師將護  
T0416\_.13.0896c15: 隨順其事若此。又承事師如奴隨主。如臣事  
T0416\_.13.0896c16: 君。事師亦爾。斯人如是疾得三昧。得三昧已

10-9 ○又云

大方等大集經賢護分（闍那崛多譯） 卷第一

T0416\_.13.0875b14: 無礙清淨智門。明見菩提自然覺知。於善知  
T0416\_.13.0875b15: 識起諸佛想。於菩薩所不念乖離。已於生死

10-10 ○又云

大方等大集經賢護分（闍那崛多譯） 卷第二

T0416\_.13.0877c23: 常以慈悲念一切 三昧豈遠在現前  
T0416\_.13.0877c24: 於法師所常隨喜 尊重恭敬等如來

10-11 ○大集經十三云

大方等大集經（曇無讖譯） 卷第十五

T0397\_.13.0104c16: 修親近供養多聞智慧者。修於和上阿闍梨  
T0397\_.13.0104c17: 所。無憍慢心尊重給侍。修如來（法）教誨無所  
T0397\_.13.0104c18: 拒逆。修於說法人所生世尊想不求其短。修

10-12 ○十住毘婆沙論四云

十住毘婆沙論（龍樹造 鳩摩羅什譯） 卷第四

T1521\_.26.0036b16: 菩提心。應常一心勤行。問曰。何等法失菩  
T1521\_.26.0036b17: 提心。答曰  
T1521\_.26.0036b18: 一不敬重法 二有憍慢心  
T1521\_.26.0036b19: 三妄語無實 四不敬知識  
T1521\_.26.0036b20: 有是四法者。若於今世死時。若次後世。則  
T1521\_.26.0036b21: 忘失菩提心。不能自知我是菩薩。不復

11-1 ○慧空の私釈。

版本の「慈善根力涅槃經」の「慈善根力○涅槃經」とし、○から「11-2」「11-3」とす。

11-2 涅槃經十四說

觀無量壽佛經疏妙宗鈔（知禮述）全六卷 卷第五

T1751\_.37.0222b24: 十界苦集四種道滅。能於一時任運與拔。故  
T1751\_.37.0222b25: 云無心攀緣自然現益。如涅槃下。梵行品文  
T1751\_.37.0222b26: 也。然彼經如來凡說八事。一伏醉象。二降力  
T1751\_.37.0222b27: 士。三化盧至。四度女人。五塗割瘡。六摩調  
T1751\_.37.0222b28: 達。七救群賊。八醫釋女。一一皆結云。慈善根  
T1751\_.37.0222b29: 力。見如是事。今文云我實不往者。即引第五



T1751\_.37.0222c01: 塗割瘡文。文現一處意通諸緣。言割瘡者。經

T1751\_.37.0222c02: 云。波羅柰城有優婆夷名摩訶斯那達多。夏

T1751\_.37.0222c03: 九十日屈請衆僧。奉施醫藥。有一比丘身嬰

引文は慧空が『涅槃經』卷十四と記しているが、知禮の取り上げるこの「八證」は、「如涅槃下。梵行品文也」とあり、『觀無量壽佛經疏妙宗鈔』（知禮述）卷第五に『涅槃經』卷第十四から知禮が抄録したものとしていることである。直接的な『涅槃經』の引文ではない。

また『涅槃經』卷十四としていることも、必ずしも正確ではなくて、「慧空が敢えて違って記している可能性」を否定できない。よって、ここでの引文元の記入においては、「こういう経・論・釈からの引文を検索にかけて、経の名を明らかにしてみたもの」である。従って、経・論・釈の引用は翻訳回数が複数のものに関しては、引用書名が必ずしも固定的ではない場合がある。

### 11-3 彼文云

#### 『大般涅槃經』（曇無讖譯）卷第十六

知禮の引文している『大般涅槃經』に関しては、慧嚴譯か曇無讖譯かの区別は難しいが、が『涅槃經』卷十四とはしていても、慧嚴譯では卷第十二が該当し、曇無讖譯では卷第十六が該当してくる。知禮の（もしくは慧空の、かもしれぬが）文は曇無讖譯に微妙に近い。

但し、ここの「彼文云」は、『大般涅槃經』（曇無讖譯）卷第十六 が、引文と最も近い。『觀無量壽佛經疏妙宗鈔』（知禮述）では、波羅柰城有優婆夷名摩訶斯那達多。夏九十日屈請衆僧。奉施醫藥。有一比丘身嬰の達多。夏九十日の間に、達多。已於過去無量先佛種諸善根。是優婆夷。夏九十日 の青文字の部分が抜けている（他にも差異は多くある）ので、「彼文」は『大般涅槃經』（曇無讖譯）卷第十六 と特定してよさそうだ。

T0374\_.12.0458a23: 如是事

T0374\_.12.0458a24: 復次善男子。波羅柰城有優婆夷。字曰（名）摩

T0374\_.12.0458a25: 訶斯那達多。已於過去無量先佛種諸善根。

T0374\_.12.0458a26: 是優婆夷。夏九十日請命（屈請）衆僧奉施醫藥。是

T0374\_.12.0458a27: 時衆中有一比丘。身嬰重病良醫診之當須

T0374\_.12.0458a28: 肉藥。若得肉者病則可除。若不得肉命將不

T0374\_.12.0458a29: 全。時優婆夷聞醫此言。尋持黃金遍至市

T0374\_.12.0458b01: 里。唱如是言。誰有肉賣吾以金買（欲買之）。若有。

T0374\_.12.0458b02: 肉者當等與金。周遍城市求（悉）不能得。是優婆

T0374\_.12.0458b03: 夷尋自取刀割其髀（股）肉。切以爲糞下種種香

T0374\_.12.0458b04: 送（施）病比丘。比丘服已病即得差。是優婆夷

T0374\_.12.0458b05: 患瘡苦惱不能堪忍。即發聲言。南無佛陀南

T0374\_.12.0458b06: 無佛陀。我於爾時在舍衛城聞其音聲。於是

T0374\_.12.0458b07: 女人起大慈心。是女尋見我持良藥塗其瘡

T0374\_.12.0458b08: 上還合（復）如本。我即爲其種種說法（說種種妙法）。聞法歡喜

T0374\_.12.0458b09: 發阿耨多羅三藐三菩提心。善男子。我於爾

T0374\_.12.0458b10: 時實不往至波羅柰城。持藥塗是（彼）優婆夷瘡（身）。

T0374\_.12.0458b11: 善男子。當知皆是慈善根力。令彼女人見如

T0374\_.12.0458b12: 是事。

T0374\_.12.0458b13: 復次善男子。調達惡人貪不知足。多服酥故

T0374\_.12.0458b14: 頭痛腹痛（腹滿）。受大苦惱不能堪忍。發如是言。

T0374\_.12.0458b15: 南無佛陀南無佛陀。我時住在優禪尼城間  
T0374\_.12.0458b16: 其音聲即生慈心。爾時調達尋便見我往至  
T0374\_.12.0458b17: 其所。手摩頭腹授與鹽湯而令服之。服已平  
T0374\_.12.0458b18: 復。善男子。我實不往調婆達所。摩其頭腹  
T0374\_.12.0458b19: 授湯令服。善男子。當知皆是慈善根力。令  
T0374\_.12.0458b20: 調(提)婆達見如是事。  
T0374\_.12.0458b21: 復次善男子。憍薩羅國有諸群賊其數五百。  
T0374\_.12.0458b22: 群黨抄劫爲害滋甚。波斯匿王患其縱暴遣  
T0374\_.12.0458b23: 兵伺捕。得已挑目(眼)遂著黑闇叢林之下。是  
T0374\_.12.0458b24: 諸群賊已於先佛殖(植)衆德本。既失目已受大  
T0374\_.12.0458b25: 苦惱。各作是言。南無佛陀南無佛陀。我等  
T0374\_.12.0458b26: 今者無有救護啼哭號咷。我時住在祇洹  
T0374\_.12.0458b27: 精舍。聞其音聲即生慈心。時有涼風吹香山  
T0374\_.12.0458b28: 中種種香藥滿其眼眶。尋還得眼如本不異。  
T0374\_.12.0458b29: 諸賊開眼即見如來。住立其前而爲說法。賊  
T0374\_.12.0458c01: 聞法已發阿耨多羅三藐三菩提心。善男子。  
T0374\_.12.0458c02: 我於爾時實不作風吹香山中種種香藥。住  
T0374\_.12.0458c03: 其人前而爲說法。善男子。當知皆是慈善根  
T0374\_.12.0458c04: 力。令彼群賊見如是事。復次善男子。琉璃

### 1 2-1 ○又云

大般涅槃經(曇無讖譯) 卷第十二

T0374\_.12.0457b02: 薩修慈是實思惟非無利益。  
T0374\_.12.0457b03: 善男子。我說是慈有無量門。所謂神通。善  
T0374\_.12.0457b04: 男子。如提婆達教阿闍世欲害如來。是時我

### 1 2-2 慧空の私釈(特定の經・論・釈なし)

### 1 3-1 ○十住毘婆沙十一云

十住毘婆沙論(龍樹造 鳩摩羅什譯) 卷第十一

T1521\_.26.0082b06: 以開事端。餘亦如是。佛十力者。力名扶助。  
T1521\_.26.0082b07: 氣勢不可窮盡。無能沮壞。雖有十名而實

### 1 3-2 ○觀經定善義云

觀無量壽佛經疏(善導集記) 卷第三 定善義

T1753\_.37.0269c29: 陀身通無礙。隨意遍周。言如意者有二種。  
T1753\_.37.0270a01: 一者如衆生意隨彼心念皆應度之。二者  
T1753\_.37.0270a02: 如彌陀之意五眼圓照六通自在。觀機可  
T1753\_.37.0270a03: 度者。一念之中無前無後身心等赴三輪開  
T1753\_.37.0270a04: 悟。各益不同也。二明或現大身或現小身。

13-3 慧空の私釈 特定の經典を出さず。

13-4 ○六十華嚴十五云

大方廣佛華嚴經（佛馱跋陀羅譯）亦名 六十華嚴 卷第十四

T0278\_09.0488b22: 菩薩言。佛子。是菩薩摩訶薩不可思議大願。

T0278\_09.0488b23: 悉普救護一切衆生。菩薩摩訶薩。立此願

T0278\_09.0488b24: 已。修學三世諸佛迴向。佛子。何等爲菩薩

13-5 ○又云

六十華嚴 卷第十五

T0278\_09.0489b09: 了知一切諸趣。思量諸佛。（慧空は菩薩とす）具足莊嚴身口意

T0278\_09.0489b10: 業。具足莊嚴一切功德。復作是念。以此善

T0278\_09.0489b11: 根迴向功德。令一切衆生常見諸佛 廣說 於彼

13-6 ○又云

六十華嚴 卷第十五

T0278\_09.0489a14: 濁。於大莊嚴其心不轉。不捨大願救護

T0278\_09.0489a15: 衆生。若見衆生濁惡無信不知報恩。修習菩

13-7 ○註論云

無量壽經優婆提舍願生偈註（曇鸞註解）卷下

T1819\_40.0839b26: 輪轉三界無有窮已。是故諸佛菩薩莊嚴

T1819\_40.0839b27: 身口意三業。用治衆生虛誑三業也。云何

13-8 ○八十華嚴迴向品云

八十華嚴 大方廣佛華嚴經（實叉難陀譯）卷第二十六

T0279\_10.0142b29: 向。巧方便故。又欲令一切衆生。獲勝欲樂。清

T0279\_10.0142c01: 淨心故。又欲令一切衆生。得善欲樂。清淨意

T0279\_10.0142c02: 故。又欲令一切衆生。得大迴向。普覆一切。諸

T0279\_10.0142c03: 衆生故。佛子。菩薩摩訶薩。或施種種上妙幢

14-1 又云 （○印はないが、2行目五文字目からを4-1とする）

八十華嚴 大方廣佛華嚴經（實叉難陀譯）卷第二十六

どういふわけか、少し戻って引文。左側の番号参照されたし。

T0279\_10.0142b02: 嚴蓋遍覆一切。諸佛國土。盡無餘故。爲令一

T0279\_10.0142b03: 切衆生。得廣大蓋（益）。普蓋（益）衆生。皆令於佛。生信

T0279\_10.0142b04: 解故。爲令一切衆生。以不可說。衆妙寶蓋。供

ここの「蓋」と經典にあるのを、慧空の「益」としたが、經典の説くのは、仏の莊嚴に関する「寶蓋」のことである。「益」とすることは、文意を損なう。

T0279\_10.0142a24: ～ 10.0142b09 までは以下の如し。参考までに掲示する。

是爲菩薩摩訶薩布施蓋時善根迴向。爲令一切衆生。得自在蓋。能持一切諸善法故。爲令一切

衆生。能以一蓋。普覆一切。虛空法界。一切刹土。示現諸佛。自在神通。無退轉故。爲令一切衆生。能以一蓋。莊嚴十方。一切世界。供養佛故。爲令一切衆生。以妙幢幡。及諸寶蓋。供養一切。諸如來故。爲令一切衆生。得普莊嚴蓋遍覆一切。諸佛國土。盡無餘故。爲令一切衆生。得廣大蓋。普蓋衆生。皆令於佛。生信解故。爲令一切衆生。以不可說。衆妙寶蓋。供養一佛。於不可說。一一佛所。皆如是故。爲令一切衆生。得佛菩提。高廣之蓋。普覆一切。諸如來故。爲令一切衆生。得一切摩尼。寶莊嚴蓋。一切寶瓔珞莊嚴蓋。一切堅固。香莊嚴蓋。種種寶清淨莊嚴蓋。無量寶清淨莊嚴蓋。

#### 14-2 ○疏二十六釋曰

大方廣佛華嚴經疏（澄觀撰） 卷第二十八

T1735\_35.0713c18: 皆令衆生因圓果滿。觸理皆蓋方顯菩薩

T1735\_35.0713c19: 悲智深妙。可謂隨順一切善根。並可虛求。

#### 14-3 ○四十華嚴二十七云

大方廣佛華嚴經（般若譯） 卷第二十七。

T0293\_10.0784c18: 心雜染。令得清淨莊嚴三業。見諸衆生心行

T0293\_10.0784c19: 不具。令其皆得清淨具足。聖者。菩薩如是。於

14-4 慧空の私釈。特には經・論・釈をい出さず。

#### 14-5 ○華嚴經七云

大方廣佛華嚴經（佛馱跋陀羅譯） 卷第七

T0278\_09.0440b06: 亦能成熟一切穀 亦大饒益群生類

T0278\_09.0440b07: 風不能學波羅蜜 亦不學佛諸功德

T0278\_09.0440b08: 猶成不可思議事 何況具足諸願者

T0278\_09.0440b09: 男子女人諸異類 海龍雷震大音聲

原典「以風」より「不可量」までは、下の四区前後の偈文と併せてよんだ慧空の意趣と見る。

#### 15-1 ○論註云

無量壽經優婆提舍願生偈註（曇鸞註解） 卷下

T1819\_40.0841b08: 本四十八願等清淨願心之所莊嚴。因淨故

T1819\_40.0841b09: 果淨。非無因他因有也。（非無因亦非他因有也）

T1819\_40.0841b10: 略説入一法句故 上國土莊嚴十七句如來

この原文は、「因無くして他の因の有るにはあらざるなり」と読んできている。しかし、慧空の示す文は「非無因亦非他因有也」であり、「亦非」は慧空の加筆である。これでは、「因無きにはならず、また他の因有るにはあらざるなり」と、別の文脈になっていく。果たしてどうしたものか……。

#### 15-2 ○又云

無量壽經優婆提舍願生偈註（曇鸞註解） 卷下

T1819\_40.0841b08: 本四十八願等清淨願心之所莊嚴。因淨故

T1819\_40.0841b09: 果淨。非無因他因有也。

上記15-1と、同じ範囲、直前。何故にこのような引文の仕方になるのか？ 意味不明。

### 15-3 ○又云

無量壽經優婆提舍願生偈註（曇鸞註解）下卷

T1819\_.40.0843c24: 答曰。論言。修五門行以自利他成就故。  
T1819\_.40.0843c25: 然覈求其本。阿彌陀如來爲增上緣。他利  
T1819\_.40.0843c26: 之與利他談有左右。若自佛而言。宜言利  
T1819\_.40.0843c27: 他。自衆生而言。宜言他利。今將談佛力。  
T1819\_.40.0843c28: 是故以利他言之。當知此意也。凡是生彼  
T1819\_.40.0843c29: 淨土及彼菩薩人天所起諸行皆緣阿彌陀  
T1819\_.40.0844a01: 如來本願力故。何以言之。若非佛力四十  
T1819\_.40.0844a02: 八願便是徒設。今的取三願用證義意。願

### 16-1 ○和尚云

觀無量壽佛經疏（善導集記）卷第四 散善義

T1753\_.37.0271a10: 二種。一者自利真實。二者利他真實。言自利  
T1753\_.37.0271a11: 真實者。復有二種。一者真實心中制捨自  
ここで慧空は、「真實」ということに話を進めることが出来ない。困ったことだ。

### 16-2 ○觀經云

佛說觀無量壽佛經（「璽良耶舍譯）一卷

T0365\_.12.0344b27: 無量壽佛身量無邊。非是凡夫心力所及。然  
T0365\_.12.0344b28: 彼如來宿願力故。有憶想者必得成就。但  
T0365\_.12.0344b29: 想佛像得無量福。況復觀佛具足身相。

### 16-3 ○華嚴經六云

大方廣佛華嚴經（佛馱跋陀羅譯）卷第六

T0278\_.09.0433b27: 若成殊勝妙解脫 則爲一切佛所護  
T0278\_.09.0433b28: 若爲一切佛所護 則生無上菩提心  
T0278\_.09.0433b29: 若生無上菩提心 則能勤修佛功德

### 16-4 ○同經十云

大方廣佛華嚴經（佛馱跋陀羅譯）卷第十

T0278\_.09.0464c07: 無量無數劫 此法甚難值  
T0278\_.09.0464c08: 若有得聞者 當知本願力  
T0278\_.09.0464c09: 如是佛深法 悉能善受持  
T0278\_.09.0464c10: 廣爲衆生說 是人難思議

### 16-5 ○又第一云

大方廣佛華嚴經（佛馱跋陀羅譯）卷第一

T0278\_.09.0397c27: 諸餘衆生類 莫能測量者

T0278\_.09.0397c28: 如來善開導 無量諸群生  
T0278\_.09.0397c29: 能令悉願樂 志求無上道  
T0278\_.09.0398a01: 佛以神通力 住世普開化

16-6 ○多羅菩薩經云

讚揚聖德多羅菩薩一百八名經 (天息災譯) 单卷

T1106\_.20.0474c21: 若令得解脫 我說彼能仁  
T1106\_.20.0474c22: 爲世所尊重 彼時觀自在  
T1106\_.20.0474c23: 出美妙言音 警覺金剛手  
T1106\_.20.0474c24: 祕密主諦聽 我從無重壽  
T1106\_.20.0474c25: 誓願之所生 爲諸世間母  
T1106\_.20.0474c26: 手執優鉢華 放光照此界

16-7 ○往生論云

無量壽經憂波提舍 (婆藪槃豆菩薩造 菩提流支譯) 单卷

T1524\_.26.0231a09: 正覺阿彌陀 法王善住持  
T1524\_.26.0231a10: 如來淨華衆 正覺華化生  
T1524\_.26.0231a11: 愛樂佛法味 禪三昧爲食

16-8 ○又云

無量壽經憂波提舍 (婆藪槃豆菩薩造 菩提流支譯) 单卷

T1524\_.26.0231a20: 同地水火風 虛空無分別  
T1524\_.26.0231a21: 天人不動衆 清淨智海生  
T1524\_.26.0231a22: 如須彌山王 勝妙無過者

16-9 ○五會讚云

淨土五會念佛略法事儀讚 (法照述) 末

T1983\_.47.0489a10: 極樂莊嚴讚  
T1983\_.47.0489a11: 彌陀願行廣無邊 悲濟群生普盡憐  
T1983\_.47.0489a12: 總欲化令歸本國 衆生罪業共無緣

16-10 ○觀經云

佛說觀無量壽佛經 (畱良耶舍譯) 单卷

T0365\_.12.0343a19: 所以者何。諸佛如來是法界身。遍入一切  
T0365\_.12.0343a20: 衆生心想中。是故汝等心想佛時。是心即是

16-11 ○行願品三十九云

大方廣佛華嚴經 (般若譯) 卷第三十九

T0293\_.10.0842a25: 德海一滴之相。即說偈言  
T0293\_.10.0842a26: 佛智廣大同虛空 普遍一切衆生心  
T0293\_.10.0842a27: 了世妄想皆非有 不起種種異分別

## 16-12 ○出現品云

大方廣佛華嚴經（實叉難陀譯）卷第五十一

T0279\_10.0271b04: 摩訶薩。應如是知。復次佛子。譬如大海其水  
T0279\_10.0271b05: 潛流四天下地。及八十億。諸小洲中。有穿鑿  
T0279\_10.0271b06: 者。無不得水。而彼大海。不作分別。我出於  
T0279\_10.0271b07: 水。佛智海水。亦復如是。流入一切衆生心中。  
T0279\_10.0271b08: 若諸衆生。觀察境界。修習法門。則得智慧清  
T0279\_10.0271b09: 淨明了。而如來智。平等無二。無有分別。但隨  
T0279\_10.0271b10: 衆生心行異故。所得智慧。各各不同。佛子。是  
T0279\_10.0271b11: 爲如來心第三相。諸菩薩摩訶薩。應如是知。

## 16-13 ○涅槃經三十云

大般涅槃經（慧嚴譯）卷第三十

T0375\_12.0806a29: 如來演說眞苦樂 是故稱號爲大悲  
T0375\_12.0806b01: 世間皆處無明殼 無有智嘴能破之  
T0375\_12.0806b02: 如來智嘴能啄（沮）壞 是故名爲最大（太）子  
T0375\_12.0806b03: 不爲三世所攝持 無有名字及假號

## 16-14 ○大集經一云

大方等大集經（曇無讖譯）卷第一

T0397\_13.0006b22: 瞋心。復有三種。一者遠離無明。二者破無  
T0397\_13.0006b23: 明殼。三者作大光明。復有四種。一者知苦。

## 17-0 慧空の私積。

特定の經・論・釈をい出さず。但し、「弥陀別益」の中の自積なので、丁寧に読む必要あり。

## 17-1 ○華嚴經一偈云

大方廣佛華嚴經（佛馱跋陀羅譯）卷第一

T0278\_09.0397c27: 諸餘衆生類 莫能測量者  
T0278\_09.0397c28: 如來善開導 無量諸群生  
T0278\_09.0397c29: 能令悉願樂 志求無上道  
T0278\_09.0398a01: 佛以神通力 住世普開化

普通はあまりあることではないと思うが、同じ引文が「16-5」にあるのだけれど、どういう意図で同じような範囲で取り上げたのか？不明だ。

## 17-2 慧空の私積。特定の經・論・釈を出ださず。

## 17-3 ○華嚴經三十六云

大方廣佛華嚴經（般若譯）卷第三十六

T0293\_10.0830a21: 令分散。法駛流中。遊行自在。隨順趣入一切

T0293\_10.0830a22: 智海。善男子。譬如木人。若無機關。身即離

T0293\_10.0830a23: 散。雖具支分。不能運動。菩薩摩訶薩。亦復

T0293\_10.0830a24: 如是。捨菩提心。行即分散。不能成就一切

大方廣佛華嚴經の 佛駄跋陀羅譯と 般若譯 の使い分けは微妙。17-1と17-3は本文に巻数指示が有り、慧空は両方を把握している。相互に巻数を入れ替えると、この引文は不成立。

ここまでで、「第一」の「他力分別」（他力の六義）を終る。

これより「第二 広積慈悲」になる。

#### 17-4 ○論註下巻云

無量壽經優婆提舍願生偈註（曇鸞註解） 下巻

T1819\_40.0842b11: 二者依慈悲門拔一切衆生苦遠離無安衆生

T1819\_40.0842b12: 心故 拔苦曰慈與樂曰悲。依慈故拔一

T1819\_40.0842b13: 切衆生苦。依悲故遠離無安衆生心。

#### 17-5 ○法界次第上云

法界次第初門（智顛撰） 卷上之下

T1925\_46.0672b14: 一慈無量心 能與他樂之心。名之爲慈。若

T1925\_46.0672b15: 行者於禪定中。念衆生令得樂時。心數法中

（16行目～18行目まで中略）

T1925\_46.0672b19: 二悲無量心 能拔他苦之心。名之爲悲。若

T1925\_46.0672b20: 行者於禪定中。念受苦衆生令得解脱時。心

#### 18-1 ○要法文上云

止觀輔行傳弘決（湛然述） 卷第三之一

T1912\_46.0224b25: 定故。四無量心前三觀相捨心止相。又悲令

T1912\_46.0224b26: 離苦亦是止相。慈令與（得）樂亦是觀相。喜心

T1912\_46.0224b27: 具二兼於止觀。今通云止者。此之四心非

「要法文の上」とあるが、検索では「慈令得樂悲令離苦」「慈令得樂」「悲令離苦」としても『要法文』は出てこない。「止觀輔行傳弘決」のみにあり。しかしながら、『要法文』とは源信僧都著述であるらしいにもかかわらず、手持の資料からその存在が確認できない。浅学ゆえに確認の方法も知らない。慧空の時代にはあったということなのだろうが、今は幻の著述になっているのだろうか。

#### 18-2 ○名義集四云

翻譯名義集（法雲編） 卷第四

T2131\_54.1125c28: 彌羅。此云慈。淨覺云。慈名愛念。觀音玄義

T2131\_54.1125c29: 云。以觀性德善愛樂歡喜起大慈心。欲與其

（中略）



T2131\_54.1126a20: 迦樓那。此云悲。淨覺記云。悲曰愍傷。觀音

### 18-3 ○佛地論五云

佛地經論(親光(等)造 玄奘譯) 卷第五

T1530\_26.0314c25: 瞋不害無癡善根。以為自性。與樂拔苦行相  
T1530\_26.0314c26: 有異。俱有三種有情緣等。慈是無瞋悲是不  
T1530\_26.0314c27: 害。慈緣無樂欲與其樂。悲緣有苦欲拔其苦。  
T1530\_26.0314c28: 無待大悲無差別轉故名平等。此即法性或

### 18-4 ○涅槃經十四云

大般涅槃經(慧嚴譯) 卷第十四

T0375\_12.0695b12: 故。善男子。悲有二種。一能奪命。二能鞭撻。  
T0375\_12.0695b13: 修慈則能斷彼奪命。修悲能除彼鞭撻  
T0375\_12.0695b14: 者。善男子。以是義故豈非四耶。復次瞋  
T0375\_12.0695b15: 有二種。一瞋衆生。二瞋非衆生修慈心者  
T0375\_12.0695b16: 斷瞋衆生。修悲心者斷瞋非衆生。復次瞋

### 18-5 ○又云

大般涅槃經(慧嚴譯) 卷第十四

T0375\_12.0694c05: 而言則應有三。世尊。慈有三緣。一緣衆生。  
T0375\_12.0694c06: 二緣於法。三則無緣。悲喜捨心亦復如是。  
T0375\_12.0694c07: 若從是義唯應有三。不應有四。衆生緣  
T0375\_12.0694c08: 者緣於五陰。願與其樂。是名衆生緣。法緣  
T0375\_12.0694c09: 者。緣諸衆生所須之物而施與之。是名法  
T0375\_12.0694c10: 緣。無緣者緣於如來。是名無緣。慈者多緣  
T0375\_12.0694c11: 貧窮衆生。如來大師永離貧窮。受第一樂。  
T0375\_12.0694c12: 若緣衆生則不緣佛。法亦如是。以是義  
T0375\_12.0694c13: 故緣如來者。名曰無緣。世尊。慈之所緣一  
T0375\_12.0694c14: 切衆生。如緣父母妻子親屬。以是義故名  
T0375\_12.0694c15: 衆生緣。法緣者不見父母妻子親屬。見一  
T0375\_12.0694c16: 切法皆從緣生。是名法緣。無緣者不住法  
T0375\_12.0694c17: 相及衆生相。是名無緣。悲喜捨心亦復如是

### 18-6 ○註論云

無量壽經優婆提舍願生偈註(曇鸞註解) 卷上

T1819\_40.0828c14: 悲是佛道正因故言正道大慈悲。慈悲有三  
T1819\_40.0828c15: 緣。一者衆生緣是小悲。二者法緣是中悲。三  
T1819\_40.0828c16: 者無緣是大悲。大悲即出世善也。安樂淨土  
T1819\_40.0828c17: 從此大悲生故。故謂此大悲為淨土之根。

### 18-7 ○觀經淨影疏云

觀無量壽經義疏(慧遠撰) 末

T1749\_37.0180c24: 見心。二佛心者大慈悲下辨佛心相。謂無緣  
T1749\_37.0180c25: 慈普攝衆生。然慈悲心有大有小。攀緣分別  
T1749\_37.0180c26: 名之爲小。心想都滅而於衆生無所分別自  
T1749\_37.0180c27: 然現益目之爲大。小中有三。一衆生緣。緣諸  
T1749\_37.0180c28: 衆生欲與其樂欲拔其苦。二者法緣。觀諸衆  
T1749\_37.0180c29: 生無我無人但有五陰生滅法數而行慈悲。  
T1749\_37.0181a01: 無我無人云何行慈。如維摩說自念爲生說如  
T1749\_37.0181a02: 斯法故名爲慈。又念衆生妄爲我人之所纏  
T1749\_37.0181a03: 縛深可哀傷故行慈悲。既無衆生爲誰說法  
T1749\_37.0181a04: 念誰爲我之所纏縛。經言無者但無人性。非  
T1749\_37.0181a05: 無幻化假名衆生故得爲說念之被縛。三者  
T1749\_37.0181a06: 無緣。觀陰空寂本無所有而行慈悲。法既不  
T1749\_37.0181a07: 有云何行慈。亦有兩義。一念爲生說如斯法。  
T1749\_37.0181a08: 即是第一義樂與人故名爲慈。二念衆生妄  
T1749\_37.0181a09: 爲有法之所纏縛深可哀傷故行慈悲。法既  
T1749\_37.0181a10: 不有何處有人而爲說乎。釋言據彼菩薩自  
T1749\_37.0181a11: 心實不見人亦不見法。不見法故無所言說。  
T1749\_37.0181a12: 不見人故無可爲說。故經說言平等法界佛  
T1749\_37.0181a13: 不度生。據彼衆生以望菩薩。於衆生外別有  
T1749\_37.0181a14: 菩薩。聞彼菩薩說無人法捨妄契實同其所  
T1749\_37.0181a15: 得便言菩薩爲生說法。故經說言衆生強分  
T1749\_37.0181a16: 別說佛度衆生。此前三種緣觀修習通名爲  
T1749\_37.0181a17: 小。大無量心亦有三種。一衆生緣。無心攀緣  
T1749\_37.0181a18: 一切衆生而於衆生自然現益。故涅槃云我  
T1749\_37.0181a19: 實不往慈善根力令諸衆生見如是事。二者  
T1749\_37.0181a20: 法緣。無心觀法而於諸法自然普照。如日照  
T1749\_37.0181a21: 物無所分別。三者無緣。無心觀如而於平等  
T1749\_37.0181a22: 第一義中自然安住。今此所論是其大中衆  
T1749\_37.0181a23: 生緣也。故今說言以無緣慈攝取衆生。此是

19-1 ○次第禪六云

釋禪波羅蜜次第法門(智顛說) 卷第六

T1916\_46.0518a05: 爲調心。得大福德入無漏故。法緣者。諸漏盡  
T1916\_46.0518a06: 阿羅漢辟支佛諸佛。是諸聖人破吾我相滅  
T1916\_46.0518a07: 一異相故但觀從因緣相續生。以慈念衆生  
T1916\_46.0518a08: 時。從和合因緣相續但空。五陰即是衆生念  
T1916\_46.0518a09: 是(見)五陰此慈念。衆生不知是法空定。衆生常  
T1916\_46.0518a10: 一心欲得樂。聖人愍之令隨意得樂。爲世俗  
T1916\_46.0518a11: 法故。名爲法緣。無緣者。是慈但諸佛有。何以  
T1916\_46.0518a12: 故。諸佛不住有爲無爲性中。不依上下過去

T1916\_.46.0518a13: 未來現在。知諸因緣爲不實。顛倒虛誑故。心  
T1916\_.46.0518a14: 無所緣。佛以衆生不知是諸法實相。往來五  
T1916\_.46.0518a15: 道心著諸法而分別取捨。以是諸法實相智  
T1916\_.46.0518a16: 慧令衆生得之。是爲無緣。譬如給濟貧人。或  
T1916\_.46.0518a17: 與財物金銀寶物。或與如無緣意神珠。衆生緣法  
T1916\_.46.0518a18: 緣無緣亦復如是。此義如摩訶衍中廣說。復  
T1916\_.46.0518a19: 次衆生緣慈但見受果報樂相。法緣慈則見

## 20-1 ○坐禪三昧經下云

坐禪三昧經 (鳩摩羅什譯) 卷下

T0614\_.15.0282c07: 異術。我是佛弟子入慈三昧故也。是慈三昧  
T0614\_.15.0282c08: 略說有三種緣生緣法緣無緣。諸未得道是  
T0614\_.15.0282c09: 名生緣。阿羅漢辟支佛是名法緣。諸佛世尊  
T0614\_.15.0282c10: 是名無緣。是故略說慈三昧門

## 20-2 ○大集經二云

大方等大集經 (曇無讖譯) 卷第二

T0397\_.13.0013c22: 是義故如來大悲不可思議。善男子。聲聞人  
T0397\_.13.0013c23: 悲猶如畫皮。菩薩大悲猶如破肉。如來大悲  
T0397\_.13.0013c24: 破骨徹髓。聲聞之悲讚佛所知。菩薩大悲勸

## 20-3 ○薩遮尼乾子經八云

大薩遮尼乾子所說經 (菩提留支譯) 卷第八

T0272\_.09.0353a20: 量。捨心無量。大王當知。沙門瞿曇。有十種無  
T0272\_.09.0353a21: 量大慈之心。一者平等大慈。不選擇一切衆  
T0272\_.09.0353a22: 生故。二者饒益大慈。能開天人善道涅槃閉  
T0272\_.09.0353a23: 諸惡趣故。三者救護大慈。畢竟能度一切衆  
T0272\_.09.0353a24: 生生死險難故。四者哀愍大慈。不捨一切衆  
T0272\_.09.0353a25: 生長養諸根故。五者解脫大慈。滅諸衆生煩  
T0272\_.09.0353a26: 惱熱故。六者出生菩提大慈。示諸衆生無上  
T0272\_.09.0353a27: 涅槃大菩提故。七者於諸衆生無礙大慈。放  
T0272\_.09.0353a28: 大光明。普照一切衆生界故。八者虛空等大  
T0272\_.09.0353a29: 慈。救護一切諸衆生故。九者法緣大慈。覺悟  
T0272\_.09.0353b01: 一切諸衆生等知真實法故。十者無緣大慈。  
T0272\_.09.0353b02: 證離生死實法性故。大王當知。是名慈心無  
T0272\_.09.0353b03: 量。大王當知。沙門瞿曇。有十種無量大悲之  
T0272\_.09.0353b04: 心。一者不共大悲。性大悲故。二者不厭大悲。  
T0272\_.09.0353b05: 代一切衆生受大苦故。三者入一切惡道大  
T0272\_.09.0353b06: 悲。處在生死度衆生故。四者於諸天人受生  
T0272\_.09.0353b07: 大悲。示現諸法悉無常故。五者不捨一切邪  
T0272\_.09.0353b08: 定。衆生大悲。於無量劫起大誓心莊嚴成就

T0272\_09.0353b09: 故。六者不著已樂大悲。爲與一切衆生樂故。  
T0272\_09.0353b10: 七者不求報大悲自心清淨故。八者除滅一  
T0272\_09.0353b11: 切衆生倒心大悲說實法故。九者說眞法性  
T0272\_09.0353b12: 大悲。知諸法界自性清淨故。十者說空空無  
T0272\_09.0353b13: 所有大悲。不爲諸客塵煩惱染故。大王當  
T0272\_09.0353b14: 知。是名悲心無量  
T0272\_09.0353b15: 大王當知。沙門瞿曇。有十種無量大喜之心。

### 2 1 - 1 ○又此經第六說

大薩遮尼乾子所說經 (菩提留支譯) 卷第六 (参考引用)

T0272\_09.0342b07: 何以故。以三十二相八十種好莊嚴身故。具  
T0272\_09.0342b08: 足實事不可譏嫌。何以故。以具持戒**十力四**  
T0272\_09.0342b09: 無所畏**十八**不共法畢竟成就故。是故知彼  
**十・四・十八**で**三十二** この巻で釈種沙門瞿曇の三十二相の具体的内容が出ている。

### 2 1 - 2 ○觀經云

佛說觀無量壽佛經 (曇良耶舍譯) 第九真身觀

T0365\_12.0343c01: 觀一切佛身。以觀佛身故亦見佛心。  
T0365\_12.0343c02: **佛心者大慈悲是**。以無緣慈攝諸衆生。作  
T0365\_12.0343c03: 此觀者。捨身他世生諸佛前。得無生忍。

### 2 1 - 3 ○行願品四云

佛說觀佛三昧海經 (佛陀跋陀羅譯) 卷第四・觀相品第三之四

T0643\_15.0667a26: 告阿難。持是語者即持佛心。作是觀者能觀  
T0643\_15.0667a27: 佛心。**諸佛如來以大慈悲而以爲心**。戒定慧  
T0643\_15.0667a28: 解脫解脫知見而以爲身。十力四無所畏。十  
行願品と示されているが、この經典の行願品では検索に出ない。どこに？

### 2 1 - 4 ○同六云

佛說觀佛三昧海經 (佛陀跋陀羅譯) 卷第六 觀四無量心品

T0643\_15.0674b13: 諸大衆。汝等今者應觀佛心。**諸佛心者是大**  
T0643\_15.0674b14: 慈 (悲) **也**。大慈所緣緣苦衆生。  
T0643\_15.0674b15: 佛告阿難。云何名慈心。慈心者。應當繫念

### 2 1 - 5 ○十住毘婆沙論十七云

十住毘婆沙論 (龍樹造 鳩摩羅什譯) 卷第十七 助尸羅果品第六

T1521\_26.0118b26: 亦非寂不寂 非非寂不寂  
T1521\_26.0118b27: 衆生中大悲者。衆生無量無邊故。悲心亦廣  
T1521\_26.0118b28: **大**。復次諸佛法無量無邊無盡如虛空。悲心  
T1521\_26.0118b29: **是諸佛法根本**。能得大法故名爲大悲。一

T1521\_.26.0118c01: 切眾生中最大者名為佛。佛所行故名為大  
T1521\_.26.0118c02: 悲。忍無我法者。信樂實法故。諸佛皆一涅

## 2 2-1 ○同二云

十住毘婆沙論 (龍樹造 鳩摩羅什譯) 卷第二

T1521\_.26.0026b06: 生憐愍救護。是悲漸漸增長而成大悲。有人  
T1521\_.26.0026b07: 言。在菩薩心名為悲。悲及眾生名為大  
T1521\_.26.0026b08: 卷大悲以十因緣生。如第三地中廣說。不

## 2 2-2 ○觀佛三昧經七云

佛說觀佛三昧海經 (佛陀跋陀羅譯) 卷第七

T0643\_.15.0682a08: 諸眾生受苦惱時。如已父母師長善友。生悲  
T0643\_.15.0682a09: 衰心淚如猛雨。如是等心名為大悲。見他

## 2 2-3 ○涅槃經十云

大般涅槃經 (慧嚴譯) 卷第十

T0375\_.12.0671a09: 能解是甚深 譬如善射人  
T0375\_.12.0671a10: 三世諸世尊 大悲為根本  
T0375\_.12.0671a11: 如是大慈悲 今為何所在

## 2 2-4 ○行願品一云

大方廣佛華嚴經 (般若譯) 卷第一 入不思議解脫境界普賢行願品

T0293\_.10.0662a29: 爾時世尊。知諸菩薩一切大眾心之所念。大  
T0293\_.10.0662b01: 悲為身。大悲為門。大悲為首。以大悲法。而為  
T0293\_.10.0662b02: 方便。充滿虛空。遍周法界。入於師子頻申

## 2 2-5 ○涅槃十四云

大般涅槃經 (慧嚴譯) 卷第十四

T0375\_.12.0698b20: 善男子。一切聲聞緣覺菩薩諸佛如來。所有  
T0375\_.12.0698b21: 善根慈為根本。善男子。菩薩摩訶薩修習慈

## 2 2-6 ○大集經六云

大方等大集經 (曇無讖譯) 卷第六

T0397\_.13.0038c10: 無能破壞作障礙 是名菩薩不退印  
T0397\_.13.0038c11: 虛空邊際尚可盡 世間猛風可繫縛  
T0397\_.13.0038c12: 菩薩所有不退心 一切世間不能轉  
T0397\_.13.0038c13: 成就無量陀羅尼 於諸法中不失念

## 2 2-7 ○同十一云

大方等大集經 (曇無讖譯) 卷第十一

T0397\_.13.0074b04: 不能破壞如是等法。大地可壞。大海可焦。須

T0397\_.13.0074b05: 彌山王可碎如塵衆生諸心可合。是一虛空  
T0397\_.13.0074b06: 可畫(盡)。四大可轉。諸佛誓願不可變易。爾時  
T0397\_.13.0074b07: 世尊即告阿難。汝當受持如是等經讀誦廣  
經典上の「畫」は新字では「画」となるので、意味としては慧空の「盡」が正か。

## 22-8 ○大悲分陀利經六云

大乘悲分陀利經(訳者未詳) 卷第五 歎品第十八

T0158\_.03.0271a18: 隨意皆告。世尊。我所作施戒聞修福德。若我  
T0158\_.03.0271a19: 如是立願意不滿者。我以是一切善根迴向  
T0158\_.03.0271a20: 地獄衆生。其有衆生在阿鼻地獄受諸苦切  
T0158\_.03.0271a21: 者。以是善根令彼得脫。於此佛土得生爲人。  
T0158\_.03.0271a22: 值如來法令得羅漢而入涅槃。若彼衆生業  
T0158\_.03.0271a23: 果不盡。令我今命終生阿鼻大地獄中。令我

## 22-9 ○十住毘婆沙論三云

十住毘婆沙論(龍樹造 鳩摩羅什譯) 卷第三

T1521\_.26.0034c16: 衆生性竟者。若衆生都盡滅。我願便應息。隨  
T1521\_.26.0034c17: 世間性盡。虛空性盡。諸法性盡。涅槃性盡。諸  
T1521\_.26.0034c18: 佛生性盡。諸智性盡。一切衆生心所緣性  
T1521\_.26.0034c19: 盡。入佛法智性盡。世間轉法轉(輪)智轉(性)盡。我此  
T1521\_.26.0034c20: 十願爾乃盡息。但是衆生性等十事實不盡。  
T1521\_.26.0034c21: 我是福德善根亦不盡不息。不息義者。無量

## 22-10 ○梵網義記下云

菩薩戒義疏(智顛說 灌頂記) 卷下 「梵網經義記」とも云う。

T1811\_.40.0578b27: 三不應。不應不發此心。第三十六不發誓  
T1811\_.40.0578b28: 戒。誓是必固之心願中之勇烈意。始行心

## 22-11 ○入楞伽經七云

入楞伽經(菩提流支譯) 卷第七

T0671\_.16.0559a02: 河沙。終不可得無蘇油故。大慧諸佛如來  
T0671\_.16.0559a03: 爲諸衆生苦惱。所4押瞋不可得。不捨自  
T0671\_.16.0559a04: 法界相。不捨自法味相。不捨本願與衆生  
T0671\_.16.0559a05: 樂。以得具足大慈大悲。我若不令一切衆  
T0671\_.16.0559a06: 生入涅槃者。我身亦不入於涅槃。大慧。如  
T0671\_.16.0559a07: 恒河河沙隨水而流終不逆流。大慧。諸佛如

## 23-1 ○同經二云

入楞伽經(菩提流支譯) 卷第二

T0671\_.16.0527b08: 是爲菩薩。大慧。菩薩方便作願。若諸衆生不  
T0671\_.16.0527b09: 入涅槃者。我亦不入涅槃。是故菩薩摩訶

### 23-2 ○如來會云

大寶積經(菩提流支譯) = 『無量壽如來會』が含まれる經典

T0310\_11.0093a21: 唯佛聖智能證知 我今希求堅固力  
T0310\_11.0093a22: 縱沈無間諸地獄 如是願心終不退  
T0310\_11.0093a23: 一切世間無礙智 應當了知如是心

### 23-3 ○大經云

佛說無量壽經(康僧鎧譯) 中の「嘆仏偈」に

T0360\_12.0267b17: 知我心行 假令身止 諸苦毒中  
T0360\_12.0267b18: 我行精進 忍終不悔  
T0360\_12.0267b19: 佛告阿難。法藏比丘說此頌已。而白佛

### 23-4 ○莊嚴經云

佛說大乘無量壽莊嚴經(法賢譯) 卷上(全三卷)

T0363\_12.0318c28: 速生我刹受快樂 不久俱成無上道  
T0363\_12.0318c29: 願我精進恒決定 常運慈心拔有情  
T0363\_12.0319a01: 度盡阿鼻苦衆生 所發弘誓永不斷  
T0363\_12.0319a02: 爾時世尊告阿難言。彼作法苾芻說是偈已。

### 23-5 ○賢劫經二云

賢劫經(竺法護譯) 卷第一 亦名: 陀劫三昧晋日賢劫定意經

T0425\_14.0010a10: 布施衆財物 行惑諸群生(黎)  
T0425\_14.0010a11: 假使身命肉 骨髓血脈斷  
T0425\_14.0010a12: 終不行懈怠 後世所生處  
T0425\_14.0010a13: 習在空閑居 棄一切所有

### 23-6 ○華嚴經十五云

大方廣佛華嚴經(佛馱跋陀羅譯) 卷第十四

T0278\_09.0489a18: 清淨調伏一切衆生。菩薩摩訶薩。不爲一  
T0278\_09.0489a19: 衆生故發心求阿耨多羅三藐三菩提。善根  
T0278\_09.0489a20: 迴向。不爲嚴淨一佛刹故。不爲信一佛  
T0278\_09.0489a21: 故。不爲見一佛故。不爲聞一佛法故。不  
T0278\_09.0489a22: 爲滿足一願故。菩薩摩訶薩。悉欲救護一

### 23-7 ○又云

大方廣佛華嚴經(佛馱跋陀羅譯) 卷第十四

T0278\_09.0488b22: 菩薩言。佛子。是菩薩摩訶薩不可思議大願。  
T0278\_09.0488b23: 悉普救護一切衆生。菩薩摩訶薩。立此願  
T0278\_09.0488b24: 已。修學三世諸佛迴向。佛子。何等爲菩薩

### 23-8 ○又云

大方廣佛華嚴經(佛馱跋陀羅譯) 卷第十四

T0278\_09.0488c09: 善根。修善根已。作如是念。我所修習善  
T0278\_09.0488c10: 根。悉以饒益一切衆生究竟清淨。以此所  
T0278\_09.0488c11: 修善根。令一切衆生皆悉除滅地獄餓鬼畜  
T0278\_09.0488c12: 生閻羅王等無量苦惱。復作是念。我以此善

### 23-9 ○福德三昧經下云

集一切福德三昧經(鳩摩羅什譯) 卷下

T0382\_12.1001c21: 故。菩薩應當猶如船楫。度諸衆生故。菩薩  
T0382\_12.1001c22: 應當猶之如橋。於上中下一切衆生無別想  
T0382\_12.1001c23: 故。菩薩應當猶如大池。專意正法水無盡

### 23-10 ○行願品八云

大方廣佛華嚴經(般若譯) 卷第八

T0293\_10.0696c12: 衆生根器海盡。我願乃盡。普觀十方一切衆  
T0293\_10.0696c13: 生諸行海盡。我願乃盡。竭十方一切衆  
T0293\_10.0696c14: 生惑業海盡。我願乃盡。悉滅十方一切衆生  
T0293\_10.0696c15: 衆苦海盡。我願乃盡。悉拔十方一切衆生習  
T0293\_10.0696c16: 氣海盡。我願乃盡。善男子。如是。乃至百千萬

行願品としているが、正確には、入不思議解脫境界普賢行願品のようだ。大方廣佛華嚴經 に関しては佛馱跋陀羅譯と般若譯の使い分けがあるらしい。下の文は般若譯に限定されるようだ。

### 24-1 ○華嚴經廿四云

大方廣佛華嚴經(佛馱跋陀羅譯) 卷第二十三

T0278\_09.0546a23: 所緣不可盡。九起智不可盡。十世間轉法轉  
T0278\_09.0546a24: 智轉不可盡。若衆生盡。我願乃盡。若世界。虛  
T0278\_09.0546a25: 空。法界。涅槃。佛出世。諸佛智慧。心所緣。起

### 24-2 ○又十二云

大方廣佛華嚴經(般若譯) 卷第十二

T0293\_10.0719a21: 憶想。未曾於一衆生而行惱害。善男子。如我  
T0293\_10.0719a22: 意者。寧盡未來。受無間苦。終不發起一念瞋  
T0293\_10.0719a23: 心(恚)。於一蠶(蚊)一蠅(蟻)微細衆生。起惱害想。何況  
T0293\_10.0719a24: 造作如是惡業。善男子。我自憶念。乃至夢

### 24-3 ○十住毘婆沙三云

十住毘婆沙論(龍樹造 鳩摩羅什譯) 卷第三

T1521\_26.0034c16: 衆生性竟者。若衆生都盡滅。我願便應息。隨  
T1521\_26.0034c17: 世間性盡。虛空性盡。諸法性盡。涅槃性盡。諸  
T1521\_26.0034c18: 佛生性盡。諸智性盡。一切衆生心所緣性



T1521\_.26.0034c19: 盡。入佛法智性盡。世間轉法轉智轉盡。 我此

T1521\_.26.0034c20: 十願爾乃盡息。但是衆生性等十事實不盡。

#### 2 4-4 ○華嚴經二云

大方廣佛華嚴經 (佛馱跋陀羅譯) 卷第二

T0278\_.09.0401b29: 如來法身無等等 以無上智演說法

T0278\_.09.0401c01: 無數劫海諸有中 難行苦行爲衆生

T0278\_.09.0401c02: 是故淨光如虛空 妙身顯現猶滿月

#### 2 4-5 ○又云

大方廣佛華嚴經 (佛馱跋陀羅譯) 卷第二

T0278\_.09.0402a12: 悉令衆生離邪道 善能安立方便地

T0278\_.09.0402a13: 大慈悲雲靡不覆 佛身難思等衆生

T0278\_.09.0402a14: 普雨法雨潤一切 是佛第一上方便

#### 2 4-6 ○又七云

大方廣佛華嚴經 (佛馱跋陀羅譯) 卷第六

T0278\_.09.0435b27: 悉能普應同其事 以此攝法度衆生

T0278\_.09.0435b28: 無量無邊大苦海 爲衆生故悉能忍

T0278\_.09.0435b29: 與彼同事不念苦 饒益衆生令安樂

T0278\_.09.0435c01: 若有不識出家法 樂著生死不求解

#### 2 4-7 ○又云

大方廣佛華嚴經 (佛馱跋陀羅譯) 卷第六

T0278\_.09.0435c06: 菩薩所行無有餘 修習是法度衆生

T0278\_.09.0435c07: 或有衆生壽無量 煩惱微細樂世間

T0278\_.09.0435c08: 爲斯一切衆生類 示現生老病死患

T0278\_.09.0435c09: 或有貪欲瞋恚癡 煩惱猛火常熾然

#### 2 4-8 ○又云

大方廣佛華嚴經 (佛馱跋陀羅譯) 卷第六

T0278\_.09.0435c19: 或爲長者邑中主 或爲賈客商人導

T0278\_.09.0435c20: 或爲國王及大臣 或爲良醫療衆病

T0278\_.09.0435c21: 或於曠野作大樹 或爲良藥無盡藏

T0278\_.09.0435c22: 或作寶珠隨所求 迷道衆生示正路

#### 2 4-9 ○又云

大方廣佛華嚴經 (佛馱跋陀羅譯) 卷第六

T0278\_.09.0436b07: 彼悉能度四駛流 示導無畏解脫處

T0278\_.09.0436b08: 造立無量諸橋梁 或作舟船度衆生

T0278\_.09.0436b09: 毀皆有爲讚寂靜 因此得成度光明

## 24-10 ○又云

大方廣佛華嚴經（佛馱跋陀羅譯）卷第七

T0278\_09.0439b07: 尚能示現難思議 況大饒益自在力  
T0278\_09.0439b08: 現作日月遊虛空 普照十方諸世界  
T0278\_09.0439b09: 或作河池井泉水 或作大海衆寶器  
T0278\_09.0439b10: 如是等比難思議 普現十方諸世界

## 24-11 ○同十五云

大方廣佛華嚴經（佛馱跋陀羅譯）卷第十四

T0278\_09.0489b23: 法。不識淨僧。此諸衆生。具有無量大惡罪  
T0278\_09.0489b24: 業。應受無量無邊楚毒。我當於彼三惡道  
T0278\_09.0489b25: 中悉代受苦令得解脫。我當代受無量苦  
T0278\_09.0489b26: 惱。不以苦故其心退轉恐怖懈怠捨離衆生。  
T0278\_09.0489b27: 何以故。我爲衆生荷負重擔。滿平等願。度

## 24-12 ○又云

大方廣佛華嚴經（佛馱跋陀羅譯）卷第十四

T0278\_09.0489c13: 道嶮谷。救無量苦度生死流。復作是念。  
T0278\_09.0489c14: 我當爲一切衆生受無量苦。令諸衆生悉  
T0278\_09.0489c15: 得免出生死沃焦。我當爲一切衆生。於一  
T0278\_09.0489c16: 切刹一切地獄中。受一切苦。終不捨離。我  
T0278\_09.0489c17: 當於一一惡道盡未來劫。代諸衆生受無

## 25-1 ○同十七云

大方廣佛華嚴經（佛馱跋陀羅譯）卷第十六

T0278\_09.0499c23: 冠。髻中明珠。若見獄囚受諸楚毒。起大悲  
T0278\_09.0499c24: 心。捨諸庫藏妻子眷屬。以身處獄救苦衆  
T0278\_09.0499c25: 生。見送獄囚趣於死地。自捨己身以代  
T0278\_09.0499c26: 彼命。若有人乞連膚頂髮髻中明珠眼耳鼻

## 25-2 ○同十八云

大方廣佛華嚴經（佛馱跋陀羅譯）卷第十七

T0278\_09.0507c14: 生。作如是言。我當捨身以代彼命。設使苦  
T0278\_09.0507c15: 痛過彼無量。悉當代受令其解脫。復作是  
T0278\_09.0507c16: 念。見如是苦。而不代受。爲失大利。何以

## 25-3 ○又云

大方廣佛華嚴經（佛馱跋陀羅譯）卷第十七

T0278\_09.0506b23: 或施聲聞。或施緣覺。或施大衆。或施福伽  
T0278\_09.0506b24: 羅。或施貧人。諸來求者普施無遺。菩薩摩訶

T0278\_.09.0506b25: 薩。施幢幡時。如是迴向。以此善根。令一

#### 25-4 ○行願品二十七云

大方廣佛華嚴經(般若譯) 卷第二十七

T0293\_.10.0784b28: 之。心生憂惱。聖者。譬如有人唯有一子。愛念

T0293\_.10.0784b29: 情至。忽見被人割截肢體。其心痛切。不能自

T0293\_.10.0784c01: 安。菩薩摩訶薩亦復如是。見諸衆生集不善

T0293\_.10.0784c02: 業。墮三惡趣。受種種苦。心大憂惱。不能自

T0293\_.10.0784c03: 安。若見衆生起身語意三(二)種善行。生於善道。

T0293\_.10.0784c04: 受身心樂。生大歡喜。何以故。菩薩不爲利益

慧空は「二種善行」とするが、正しくは「三種善行」。書下し文では「三種」に補正した。

#### 25-5 ○涅槃經十五云

大般涅槃經(慧嚴譯) 卷第十五

T0375\_.12.0701a22: 極愛復名一子。善男子。譬如父母見子安

T0375\_.12.0701a23: 隱心大歡喜。菩薩摩訶薩住是地中亦復如

T0375\_.12.0701a24: 是。視諸衆生同於一子。見修善者生大

T0375\_.12.0701a25: 歡喜。是故此地名曰極愛。善男子。譬如父

#### 25-6 ○又云

大般涅槃經(慧嚴譯) 卷第十五

T0375\_.12.0701a25: 歡喜。是故此地名曰極愛。善男子。譬如父

T0375\_.12.0701a26: 母見子遇患心生苦惱慙之愁毒初無捨

T0375\_.12.0701a27: 離。菩薩摩訶薩住是地中亦復如是。見諸

#### 25-7 ○又云

大般涅槃經(慧嚴譯) 卷第十五

T0374\_.12.0459a01: 是地中亦復如是。見諸衆生爲煩惱病之所

T0374\_.12.0459a02: 纏切。心生愁惱憂念如子。身諸毛孔血皆流

T0374\_.12.0459a03: 出。是故此地名爲一子。善男子。如人小時拾

#### 25-8 ○觀佛三昧經六云

佛說觀佛三昧海經(佛陀跋陀羅譯) 卷第六

T0643\_.15.0674c19: 慈者。既習慈已次當行悲。悲者見衆受苦。

T0643\_.15.0674c20: 如箭入心如破眼目。心極悲苦遍體兩血欲

T0643\_.15.0674c21: 拔彼苦。如此悲者有百億門。廣說如大悲三

#### 25-9 ○涅槃經十八云

大般涅槃經(慧嚴譯) 卷第十八

T0374\_.12.0481a16: 言。耆婆。如來世尊亦見念耶。耆婆答言。譬

T0374\_.12.0481a17: 如一人而有七子。是七子中一子遇病。父母

T0374\_.12.0481a18: 之心非不平等。然於病子心則偏多。大王。  
T0374\_.12.0481a19: 如來亦爾。於諸衆生非不平等。然於罪者心  
T0374\_.12.0481a20: 則偏重。於放逸者佛則慈念。不放逸者心則

## 25-10 ○觀經玄義云

觀無量壽佛經疏(善導集記) 玄義分卷第一

T1753\_.37.0248b02: 更復何憂乃藉草提請求生路。然諸佛大悲  
T1753\_.37.0248b03: 於苦者。心偏愍念常沒衆生。是以勸歸淨

## 25-11 ○蓮華經二云

妙法蓮華經(鳩摩羅什譯) 卷第二

T0262\_.09.0014c25: 三界火宅 寂然閑居 安處林野  
T0262\_.09.0014c26: 今此三界 皆是我有 其中衆生  
T0262\_.09.0014c27: 悉是吾子 而今此處 多諸患難

## 26-1 ○涅槃經十八云

大般涅槃經(慧嚴譯) 卷第十八

T0375\_.12.0728b07: 是名大涅槃 聞者破諸果  
T0375\_.12.0728b08: 如來爲一切 常作慈父母  
T0375\_.12.0728b09: 當知諸衆生 皆是如來子  
T0375\_.12.0728b10: 世尊大慈悲 爲衆修苦行  
T0375\_.12.0728b11: 如人著鬼魅 狂亂多所爲  
T0375\_.12.0728b12: 我今得見佛 所得三業善

『教行信証』「信卷」(『真宗聖典』267 ページ)の引文は、慧嚴譯と曇無讖譯との僅かな文字の差異から、『大般涅槃經』は、主に慧嚴譯を使っていることが判る。

## 26-2 ○同經三十師子吼菩薩讚佛偈云

大般涅槃經(慧嚴譯) 卷第三十

T0374\_.12.0559c19: 生。云何獨令我受化身。爾時師子吼菩薩。合  
T0374\_.12.0559c20: 掌長跪右膝著地。以偈讚佛  
T0374\_.12.0559c21: 如來無量功德聚 我今不能廣宣說  
29 行目まで「乃至」  
T0374\_.12.0559c29: 見他受苦身戰動 處在地獄不覺痛  
T0374\_.12.0560a01: 爲諸衆生受大苦 是故無勝無有量  
T0374\_.12.0560a02: 如來爲衆修苦行 成就具足滿六度  
T0374\_.12.0560a03: 心處邪風不傾動 是故能勝世大士  
T0374\_.12.0560a04: 衆生常欲得安樂 而不知修安樂因  
T0374\_.12.0560a05: 如來能教令修習 猶如慈父愛一子  
T0374\_.12.0560a06: 佛見衆生煩惱患 心苦如母念病子  
T0374\_.12.0560a07: 常思離病諸方便 是故此身繫屬他

27 行目まで「乃至」

T0374\_.12.0560a27: 是故一切諸智者 稱說如來不求報  
T0374\_.12.0560a28: 常共世間放逸行 而身不爲放逸汚

### 26-3 ○又云

大般涅槃經(慧嚴譯) 卷第三十

T0375\_.12.0804b17: 受恩而常施恩。雖施於恩而不求報。是

### 26-4 ○同經迦葉菩薩讚佛偈云

大般涅槃經(慧嚴譯) 卷第三十四

T0375\_.12.0838a01: 之相。爾時迦葉菩薩即於佛前。以偈讚佛

26 行目まで取らず

T0375\_.12.0838a26: 如來受苦不覺苦 見衆生苦如己苦  
T0375\_.12.0838a27: 雖爲衆生處地獄 不生苦想及悔心  
T0375\_.12.0838a28: 一切衆生受異苦 悉是如來一人苦  
T0375\_.12.0838a29: 覺已其心轉堅固 故能勤修無上道  
T0375\_.12.0838b01: 佛具一味大慈心 愍念衆生如子想

慧空の指定する卷第三十四は、慧嚴訳が該当する。曇無讖訳では該当なし。

### 26-5 ○同經二云

大般涅槃經(慧嚴譯) 卷第二

T0375\_.12.0616a19: 等遇我不應空過。我於往昔種種苦行。今  
T0375\_.12.0616a20: 得如是無上方便。爲汝等故無量劫中捨  
T0375\_.12.0616a21: 身手足頭目髓腦。是故汝等不應放逸。汝等  
T0375\_.12.0616a22: 比丘。云何莊嚴正法寶城。具足種種功德珍  
(曇無讖譯) 卷第二

T0374\_.12.0376b19: 花。汝諸比丘。離於八難得人身難。汝等遇  
T0374\_.12.0376b20: 我不應空過。我於往昔種種苦行。今得如是  
T0374\_.12.0376b21: 無上方便。爲汝等故無量劫中捨身手足頭  
T0374\_.12.0376b22: 目髓腦。是故汝等不應放逸。汝等比丘。云何  
T0374\_.12.0376b23: 莊嚴正法寶城。具足種種功德珍寶戒定智

引文先の特定は出来なかった。卷数の指定も、この範囲では同じ。一応慧嚴譯で。

### 26-6 ○大論十四云

大智度論(龍樹造 鳩摩羅什譯) 卷第十四

T1509\_.25.0168a02: 亦復如是。復次菩薩育養一切愛之如子。  
T1509\_.25.0168a03: 若衆生瞋惱菩薩。菩薩愍之不瞋不責(恚)。譬  
T1509\_.25.0168a04: 如慈父撫育子孫。子孫幼稚未有所識。或  
T1509\_.25.0168a05: 時罵詈打擲不敬不畏。其父愍其愚小愛  
T1509\_.25.0168a06: 之愈(逾)至。雖有過罪不瞋不恚。菩薩忍辱  
T1509\_.25.0168a07: 亦復如是。復次菩薩思惟。若衆生瞋惱加我

経文中の「責」を慧空は「恚」としているが、それが正と思われる。また経文中の「愈」を慧空は「逾」としているが、どちらでも正と思われる。

## 27-1 ○菩薩處胎經二云

菩薩從兜術天降神母胎說廣普經（竺佛念譯） 卷第三

T0384\_12.1030b27: 偈言

T0384\_12.1030b28: 吾從無數劫 往來生死道  
T0384\_12.1030b29: 捨身復受身 不離胞胎生  
T0384\_12.1030c01: 計我所經歷 記一不記餘  
T0384\_12.1030c02: 純作白狗形 積骨億須彌  
T0384\_12.1030c03: 以針刺地種 無不值我體  
T0384\_12.1030c04: 何況餘色狗 其數不可量  
T0384\_12.1030c05: 吾故攝其心 不令隨放逸  
T0384\_12.1030c06: 如人立須彌 執不死藥瓶

## 27-2 ○大悲經四云

大悲經（那連提耶舍譯） 卷第四

T0380\_12.0962c26: 益。緣覺尚無。何況聲聞及餘衆生。阿難。我苦  
T0380\_12.0962c27: 薩時久修苦行。棄捨王位婦兒妻子。及諸姪  
T0380\_12.0962c28: 女身命手足。頭目耳鼻血肉骨髓。及受種種  
T0380\_12.0962c29: 無量苦痛。彼等一切悉爲汝等。怖求阿耨多  
T0380\_12.0963a01: 羅三藐三菩提故。阿難。一切難捨我悉已捨。  
T0380\_12.0963a02: 所受衆苦悉爲衆生。阿難。此等功德。若我廣  
T0380\_12.0963a03: 說則不可盡。而有聞者心則迷悶。況有說者。  
T0380\_12.0963a04: 阿難。若有衆生起一念心悲愍。釋迦牟尼如  
T0380\_12.0963a05: 來應供正遍知。本昔修行菩薩苦行作如是  
T0380\_12.0963a06: 言。爲我等故具受無量種種苦痛難爲之事。  
T0380\_12.0963a07: 阿難。我說彼等一發心者。必定當得最後涅  
T0380\_12.0963a08: 槃。何況我所種善根者。阿難。或有愚人漫

## 27-3 ○同經五云

大悲經（那連提耶舍譯） 卷第五

T0380\_12.0971a22: 乃至發心作少善根種諸種子。聞佛如來說  
T0380\_12.0971a23: 諸妙法。深解義趣憶念如來。心生愛敬有伎  
T0380\_12.0971a24: 淚者。長歎者毛豎者。若墮地獄畜生餓鬼。無  
T0380\_12.0971a25: 有是處。若於菩提不得究竟。亦無是處。阿

同文引用が（未：6-6）にもあり。引用意義未詳。「伎」は「ぬぐう」。合計3ヶ所。日本文字になし。

## 27-4 ○涅槃經十六云

大般涅槃經（慧嚴譯） 卷第十六

T0375\_12.0714a07: 善男子。譬如長者其家失火。長者見已從舍

T0375\_12.0714a08: 而出。諸子在後未脫火難。長者爾時定知  
T0375\_12.0714a09: 火害。爲諸子故旋還赴救不顧其難。菩薩  
T0375\_12.0714a10: 摩訶薩亦復如是。雖知生死多諸過惡。爲  
T0375\_12.0714a11: 衆生故處之不厭。是故復名不可思議。善  
T0375\_12.0714a12: 男子。無量衆生發菩提心。見生死中多諸

曇無讖譯とは引文は全く同じだが、慧空の示す「十六」は慧嚴譯。よって曇無讖譯は取らず。

## 28-1 ○無上依經上云

佛說無上依經(眞諦譯) 卷上

T0669\_16.0470a24: 如來界故。阿難。譬如豪富長者唯一男  
T0669\_16.0470a25: 端正聰黠。保念愛惜瞻視養護情無暫捨。是  
T0669\_16.0470a26: 兒稚小貪樂舞戲。不悟脚跌墮大深坑糞穢  
T0669\_16.0470a27: 死屍臙爛臭處。其兒母親及餘眷屬。見子墮  
T0669\_16.0470a28: 坑驚喚大叫。嗚呼痛哉煩冤懊惱。是諸親屬  
T0669\_16.0470a29: 雖復悲號而身無力。怯弱不能入此深坑救  
T0669\_16.0470b01: 拔子苦。是時長者速疾馳還。念子心重不厭  
T0669\_16.0470b02: 臭穢。自入坑中捉子牽出。如是阿難。我作此

## 28-2 ○大集經二十七云

大方等大集經(曇無讖譯) 卷第二十六

T0397\_13.0181a13: 生故。善男子。譬如一城縱廣一由旬多有諸  
T0397\_13.0181a14: 門。路嶮黑闇甚可怖畏。有入城者多受安樂。  
T0397\_13.0181a15: 復有一人唯有一子愛念甚重。遙聞彼城如  
T0397\_13.0181a16: 是快樂。即便捨子欲往入城。是人方便得過  
T0397\_13.0181a17: 嶮道。到彼城門一足已入未舉一足。即念其  
T0397\_13.0181a18: 子。尋作是念我唯一子。來時云何竟不與俱。  
T0397\_13.0181a19: 誰能養護令離衆苦。即捨樂城還向子所。善  
T0397\_13.0181a20: 男子。菩薩摩訶薩亦復如是。爲憐愍故修習  
T0397\_13.0181a21: 五上通。既修習已。垂得盡漏而不取證。何以  
T0397\_13.0181a22: 故。愍衆生故捨漏盡通。乃至行於凡夫地中。  
T0397\_13.0181a23: 善男子。城者喻於大般涅槃。多諸門者喻於

## 28-3 ○涅槃經十四云

大般涅槃經(慧嚴譯) 卷第十四

T0375\_12.0696b28: 善男子。夫修慈者實非妄想諦是眞實。若  
T0375\_12.0696b29: 是聲聞緣覺之慈。是名虛妄。諸佛菩薩眞實  
T0375\_12.0696c01: 不虛。云何知耶。善男子。菩薩摩訶薩修行

曇無讖譯は引文は全く同じだが、慧空の示す「十四」は慧嚴譯が正。曇無讖譯を取らず。

## 28-4 ○同八云

大般涅槃經(慧嚴譯) 卷第八

0375\_.12.0656a10: 佛法亦爾甚深難解。如來實無憂悲苦惱。而  
T0375\_.12.0656a11: 於衆生起大慈悲。現有憂悲。祝諸衆生  
T0375\_.12.0656a12: 如羅睺羅。復次善男子。無想天中所有壽命。

21 行目まで乃至

T0375\_.12.0656a21: 有憂及以無憂是佛境界。非諸聲聞緣覺所

こども曇無讖譯でも同じだが、前の関係から易く慧嚴譯を取る。

## 28-5 ○法事讚上云

轉經行道願往生淨土法事讚(善導集記) 卷上

T1979\_.47.0425c19: 體則元來不動。但以如來智德嘆之難盡。道

T1979\_.47.0425c20: 場衆等各生慚謝之心。能使諸佛爲我捨身。

T1979\_.47.0425c21: 過於塵劫。哀哉世尊能爲難事。長劫勤勤忍

T1979\_.47.0425c22: 疲勞之苦痛。雖復爲生苦行。不覓小恩。望欲

T1979\_.47.0425c23: 等出塵勞會菩提而歸彼岸。衆等齊心。爲今

「讚佛慈悲集」本 (「分別他力」「廣釋慈悲」) の引文確認は以上)

## 「讚佛慈悲集」末 (「解報其恩」) 引用確認

(冒頭「私釈」の中、1～3)

### 1-1 智論二十二云

大智度論(龍樹造 鳩摩羅什譯) 釋初品中八念義第三十六之餘卷二十二

T1509\_.25.0228b21: 根力覺道實相。實相雖微妙。一切衆生皆

T1509\_.25.0228b22: 蒙佛恩故得。以是故念佛在前。次第念法

慧空の記す「一世如是」より「幾千衣佛皮」までは、慧空の取意か。

### 1-2 大悲經云

～「云具説説聞者悶絶」自体が慧空の取意か。

### 1-3 止觀論云

～「捨恒沙身命」より「復如上文」の全体が慧空の取意か。

「捨恒沙身命」は『金剛仙論』(世親造 金剛仙釋 菩提流支譯)と『釋』のみにあるようだ。

『止觀論』と出ているのは不明。「難報」は慧空の取意か。

### 1-4 ○大論四十九云

大智度論(龍樹造 鳩摩羅什譯) 釋發趣品第二十卷四十九

T1509\_.25.0413c23: 之人敬愛好心豈非恩分。復次知恩者。是大



T1509\_.25.0413c24: 悲之本開善業初門。人所愛敬名譽遠聞。

T1509\_.25.0413c25: 死則生天終成佛道。不知恩人甚於畜生。

T1509\_.25.0413c26: 如佛說本生經。有人入山伐木迷惑失

## 2-1 ○不思議境界經云

大方廣如來不思議境界經（實叉難陀譯） 全一卷

T0301\_.10.0910c12: 賴其恩者。應念倍增報恩供養。何以故。以知

T0301\_.10.0910c13: 恩者。雖在生死。不壞善根。不知恩者。善根斷

T0301\_.10.0910c14: 滅。作諸惡業。故諸如來。稱讚知恩。毀背恩

T0301\_.10.0910c15: 者。又常愍濟諸苦衆生。菩薩由此廣大善根。

## 2-2 ○業報差別經云

佛爲首迦長者說業報差別經（瞿曇法智譯） 全一卷

T0080\_.01.0893a07: 癡惡人。不生輕賤。以是十業。得正智報

T0080\_.01.0893a08: 復有十業。能令衆生得地獄報。何等為十 一者身行重

T0080\_.01.0893a09: 惡業。二者口行重惡業。三者意行重惡業。四

T0080\_.01.0893a10: 者起於斷見。五者起於常見。六者起無因見。

T0080\_.01.0893a11: 七者起無作見。八者起於無見。九者起於邊

T0080\_.01.0893a12: 見。十者不知恩報。以是十業。得地獄報。

T0080\_.01.0893a13: 復有十業。能令衆生得畜生報。一者身行中

下線部の「何等為十」は慧空の加筆。

## 2-3 ○賢護分三云

大方等大集經賢護分（闍那崛多譯） 卷第三

T0416\_.13.0884a18: 生教師想起諸佛想。一切衆具悉以奉之。常

T0416\_.13.0884a19: 當識恩恒思報德。以能教我微妙法故。賢護。

## 2-4 ○大集經十云

大方等大集經（曇無讖譯） 卷第十

T0397\_.13.0063c19: 子。復有四法障礙大乘（法）。何等爲四。一者聽

39 行の乃至

T0397\_.13.0064b01: 二者不觀外。三者無慚。四者無愧。復有四法。

T0397\_.13.0064b02: 一不知恩。二不報恩。三者背恩四者樂邪見。

T0397\_.13.0064b03: 復有四法。一者誹謗聖人。二者將護世人。三

下線のある障礙大乘（法）は、慧空が經文から「礙」を除き「法」を加えて引文とした。

## 2-5 ○又賢護分云

大方等大集經賢護分（闍那崛多譯） 卷第五

T0416\_.13.0896c16: 君。事師亦爾。斯人如是疾得三昧。得三昧已

T0416\_.13.0896c17: 當念憶持。常念師恩恒思報答。賢護。是三昧

## 2-6 ○華嚴經十五云

大方廣佛華嚴經 (佛馱跋陀羅譯) 卷第十四

T0278\_09.0489a14: 濁。於大莊嚴其心不轉。不捨大願救護

T0278\_09.0489a15: 衆生。若見衆生濁惡無信不知報恩。修習苦

T0278\_09.0489a16: 提未曾懈廢。若與愚癡童蒙共事。心無憂

## 2-7 ○報恩經三云

大方便佛報恩經 (失訳者名) 卷第三

T0156\_03.0142b10: 出生於人中。遇佛世尊即得漏盡。佛告阿難。

T0156\_03.0142b11: 當念父母及善知識恩。是故知恩常當報恩。

T0156\_03.0142b12: 善知識者是大因縁。佛說此法時。無量百千

## 2-8 ○念佛三昧經四云

菩薩念佛三昧經 (功德直譯) 卷第四

T0414\_13.0816c07: 常供養諸佛 法僧亦如是

T0414\_13.0816c08: 若於善知識 恒念報其恩

T0414\_13.0816c09: 遠諸惡知友 不聞邪師論

## 2-9 ○大集經十云

大方等大集經 (曇無讖譯) 卷第十

T0397\_13.0062a18: 心。二者至心清淨。復有二法。(利益大乘) 一者知恩。二

T0397\_13.0062a19: 者念恩。復有二法。一者說一切過。二者而

下線部分の [利益大乘](#) は、慧空の加筆と思われる。

## 2-10 ○又云

大方等大集經 (曇無讖譯) 卷第十

T0397\_13.0062b16: 故造作諸業。復有二法。一者於有恩處常欲

T0397\_13.0062b17: 報之。二者於恩無恩等而報之。復有二法。一

## 2-11 ○賢護分四云

大方等大集經賢護分 (曇無讖譯) 卷第四

T0416\_13.0890b08: 識處常生慚愧。於諸幼稚常懷慈憐。乃至受

T0416\_13.0890b09: 他小恩尚思厚報。何況人有重德而敢輒忘。

T0416\_13.0890b10: 常住實言未曾妄語。賢護。是爲菩薩摩訶薩

## 2-12 慧空の私釈

## 2-13 ○報恩經七云

大方便佛報恩經 (失訳者名) 卷第七

T0156\_03.0162c04: 白佛言。世尊。如來初發菩提心時知恩報

T0156\_03.0162c05: 恩。行初四事其義云何。佛告阿難。乃往過去

## 2-14 ○又云

大方便佛報恩經(失訳者名) 卷第七

T0156\_03.0162b20: 止。佛告阿難。若有善男子善女人。知恩報  
T0156\_03.0162b21: 恩。當行四事。一者親近善友。二者至心聽  
T0156\_03.0162b22: 法。三者思惟其義。四者如說修行。復有四

## 2-15 ○又云

大方便佛報恩經(失訳者名) 卷第七

T0156\_03.0163b23: 畏王難飢渴寒熱。虎狼惡獸盜賊等事。先自  
T0156\_03.0163b24: 調伏煩惱諸根。然後聽法。非時不聽。至心  
T0156\_03.0163b25: 聽法。恭敬說者。尊重於法。是名菩薩知恩  
T0156\_03.0163b26: 報恩。云何菩薩至心聽法。聽法有四。一者

## 3-1 ○心地觀經三報恩品云

大乘本生心地觀經(般若譯) 卷第三

T0159\_03.0306b04: 乃成佛道化諸衆生。若有淨信善男子等。  
T0159\_03.0306b05: 得聞是經信解受持解說書寫。以無所得  
T0159\_03.0306b06: 三輪體空。竊爲一人說四句法。除邪見心  
T0159\_03.0306b07: 趣向菩提。是即名爲報於四恩。何以故。是  
T0159\_03.0306b08: 人當得無上菩提。展轉教化無量衆生令  
T0159\_03.0306b09: 入佛道。三寶種子永不斷絕。爾時智光長

## 3-2 ○大集十四云

大方等大集經(曇無讖譯) 卷第十六

T0397\_13.0108c03: 調伏自守不失戒 忍辱軟和善防護  
T0397\_13.0108c04: 能報恩者造善業 能勤精進不失道  
T0397\_13.0108c05: 善能專心定諸根 心能分別思惟慧

## 3-3 ○十八云

大方等大集經(曇無讖譯) 卷第十三

T0397\_13.0088a02: 男子。我若知恩何得不報。若有衆生不能修  
T0397\_13.0088a03: 行菩提道者。如是之人則不能報。寶女。云何

## 3-4 ○大般若經 四百四十三云

大般若波羅蜜多經(玄奘譯) 卷第四百四十三

T0220\_07.0232b17: 者。能報恩者。善現。若有問言誰是知恩能  
T0220\_07.0232b18: 報恩者。應正答言。佛是知恩能報恩者。何以  
T0220\_07.0232b19: 故。一切世間知恩報恩無過佛故。時具壽善

引用文と同じ文面が、同じ經典の中に他に3ヶ所あるが、慧空が卷第四四三と指定しているので、その卷第四四三からの前後の文字を黒文字で記す。しかしながら『法苑珠林』(道世撰 卷第五十)に、「般若經第

四百四十三云若有問言誰是知恩能報恩者應正答言佛是知恩能報恩者何以故一切世間知恩報恩無過佛故」と引文と  
同文があるので、あるいは『大般若波羅蜜多經』(玄奘譯)については、慧空の場合は『法苑珠林』からの引文  
の可能性もありそう。

### 3-5 ○増一阿含經云

諸經要集(道世撰) 卷第八

T2123\_.54.0067c27: 以故。一切世間。知恩報恩無過佛故  
T2123\_.54.0067c28: 又増一阿含經云。爾時世尊告諸比丘。若有  
T2123\_.54.0067c29: 衆生知返復者。此人可敬。小恩尚不忘。何  
T2123\_.54.0068a01: 況大恩。設離此間百千由旬。猶近我不異。我  
T2123\_.54.0068a02: 恒歎譽。若有衆生不知返復者。大恩尚不憶。  
T2123\_.54.0068a03: 何況小恩。彼非近我我不近彼。正使披僧伽  
T2123\_.54.0068a04: 梨在吾左右。此人猶遠。是故比丘當念返  
T2123\_.54.0068a05: 復。莫學無返復。  
T2123\_.54.0068a06: 又舍利弗問經云。佛言。夫受戒隨其力辦可  
直接に經文を引いたのではない。引文そのものが「又増一阿含經云」から始まる。

### 3-6 ○涅槃經中法顯譯云

大般涅槃經(法顯譯) 卷中

T0007\_.01.0199a22: 然已見。世尊又復告阿難言。欲供養我報於  
T0007\_.01.0199a23: 恩者。不必以此香花伎樂。淨持禁戒。讀誦  
T0007\_.01.0199a24: 經典。思惟諸法深妙之義。斯則名爲供養我  
T0007\_.01.0199a25: 也。爾時有一比丘。名優波摩那。如來昔日

### 3-7 ○十住毘婆沙論卷十五云

十住毘婆沙論(龍樹造 鳩摩羅什譯) 卷第十五

T1521\_.26.0101b29: 道是名供養恭敬諸佛。如經說。般涅槃時  
T1521\_.26.0101c01: 佛告阿難。天雨文陀羅華及栴檀末香作  
T1521\_.26.0101c02: 天伎樂。不名供養恭敬如來也。阿難。若  
T1521\_.26.0101c03: 比丘比丘尼優婆塞優婆夷一心不放逸親近  
T1521\_.26.0101c04: 修集聖法。是名眞供養佛。是故阿難。汝  
T1521\_.26.0101c05: 當修學眞供養佛。如是衆功德。皆是中勢

### 4-1 ○法華一云

法華經傳記(僧詳) 卷第九

T2068\_.51.0089b03: 偈捨身。遂致得佛。亦如法華一云。聞法歡喜讚。  
T2068\_.51.0089b04: 乃至發一言。即爲已供養一切三世佛。其功  
T2068\_.51.0089b05: 德輕少耶。昔大雪山中有寶塔。於中安置法  
直接經文を引いたのではない。引文の原文の「法華一云」がそのことを語る。『法華經』の該当部分は以下に記  
す如し。

妙法蓮華經(鳩摩羅什譯) 卷第一

T0262\_.09.0010a29: 天人所希有 時時乃一出  
 T0262\_.09.0010b01: 聞法歡喜讚 乃至發一言  
 T0262\_.09.0010b02: 則爲已供養 一切三世佛  
 T0262\_.09.0010b03: 是人甚希有 過於優曇花

#### 4-2 ○蓮華經七云

添品妙法蓮華經 ( 闍那崛多譯 笈多譯 ) 卷第七

T0264\_.09.0195c24: 知。爲令其人得佛慧故。若有衆生不信受者。  
 T0264\_.09.0195c25: 當於如來餘深法中示教利喜。汝等若能如  
 T0264\_.09.0195c26: 是。則爲已報諸佛之恩。時諸菩薩摩訶薩聞

ここでの『法華經』は、鳩摩羅什譯と同じ文章であるが、慧空の示す卷数が七である点からして、鳩摩羅什では卷第六であり、闍那崛多譯 笈多譯では卷第七となるので、以下の4-3、4-4も含めて『添品妙法蓮華經』を取る。

#### 4-3 ○又云

添品妙法蓮華經 ( 闍那崛多譯 笈多譯 ) 卷第六

T0264\_.09.0188a19: 讚言。善哉善哉。善男子。是真精進。是真名眞  
 T0264\_.09.0188a20: 法供養如來。若以華香瓔珞燒香旃香塗香

#### 4-4 ○同經二云

添品妙法蓮華經 ( 闍那崛多譯 笈多譯 ) 卷第二

T0264\_.09.0151b10: 修習空法 得脫三界 苦惱之患  
 T0264\_.09.0151b11: 住最後身 有餘涅槃 佛所教化  
 T0264\_.09.0151b12: 得道不虛 則爲已得 報佛之恩  
 T0264\_.09.0151b13: 我等雖爲 諸佛子等 說菩薩法

#### 4-5 ○賢劫經二云

賢劫經 ( 竺法護譯 ) 卷第一

T0425\_.14.0010b10: 來用爲第一也。欲供養佛。當以法供養而奉  
 T0425\_.14.0010b11: 事之。所以者何。乃往過去無央數劫不可稱  
 亦名を陀劫三昧晋曰賢劫定意經と云う。

#### 4-6 ○楞嚴院引經云

黒谷上人語燈録 ( 源空撰 源空輯 ) 卷第八

T2611\_.83.0149c28: 終也。次出世孝養者。如說流轉三界中恩愛  
 T2611\_.83.0149c29: 不能斷棄恩人無爲眞實報恩者是也。夫離  
 T2611\_.83.0150a01: 父母家。不顧其養。剃除頭髮犯毀傷戒。不  
 四分律刪繁補闕行事鈔 ( 道宣撰 ) 卷下之四

T1804\_.40.0150a19: 者著本俗服。拜辭父母尊者訖口說偈言。流  
 T1804\_.40.0150a20: 轉三界中恩愛不能脫。棄恩人無爲眞實報  
 T1804\_.40.0150a21: 恩者。乃脫俗服。出清信士度人經 善見云。以香湯洗

最も古い文献は道宣（中国／唐時代の僧侶）のものであるが、慧空が馴染みがあったのは源空の撰に依るものであったのだろう。故に「楞嚴院」と源信僧都を指定している。『經』としているのが、道宣の『四分律刪繁補闕行事鈔』としていいだろう。

この四句、真宗大谷派の帰敬式の時に使われている偈文である。

#### 4-7 ○大集十一云

大方等大集經（曇無讖譯） 卷第十一

T0397\_13.0069b23: 大王。汝今出家即是報佛。若能如是生信捨

T0397\_13.0069b24: 離。是名大報。是名功德。多所利益。大王。菩

#### 4-8 ○報恩經一云

大方便佛報恩經（失訳者名） 卷第一

T0156\_03.0125c17: 乘道故。爲諸大菩薩速成菩提報佛恩故。欲

#### 4-9 ○同二云

大方便佛報恩經（失訳者名） 卷第二

T0156\_03.0130c23: 是等功德利故。於如來所生大師想。生慈

T0156\_03.0130c24: 父想。常念佛恩當報佛恩。何以故。得聞正

#### 4-10 ○又云

大方便佛報恩經（失訳者名） 卷第二

T0156\_03.0135b06: 菩薩。善男子。諦聽諦聽。菩薩摩訶薩知恩

T0156\_03.0135b07: 者。當發阿耨多羅三藐三菩提心。報恩者。

T0156\_03.0135b08: 亦當教一切衆生令發阿耨多羅三藐三菩提

T0156\_03.0135b09: 心。若發菩提心云何而發。菩薩因何事故。所

#### 4-11 ○十住毘婆沙論十五云

十住毘婆沙論（龍樹造 鳩摩羅什譯） 卷第十五

T1521\_26.0105a26: 佛於恒沙劫 捨樂作福業

T1521\_26.0105a27: 若捨一惡人 則爲背佛恩

T1521\_26.0105a28: 是故惡衆生 不應於中捨

T1521\_26.0105a29: 若人於無量 阿僧祇劫中

#### 4-12 ○又云

十住毘婆沙論（龍樹造 鳩摩羅什譯） 卷第十五

T1521\_26.0106a06: 能令此人至阿耨多羅三藐三菩提。以五因

T1521\_26.0106a07: 緣故應受護正法。一知報諸佛恩故。二

T1521\_26.0106a08: 令法久住故。三以最上供養供養諸佛故。

T1521\_26.0106a09: 四利益無量衆生故。五正法第一難得故。

T1521\_26.0106a10: 如說

## 5-1 ○大論偈云

緇門警訓 (如曇續集) 卷第十 卷第四にもあるが、偈文記述の卷第十とす。

T2023\_.48.1092c13: 上。利益廣大傳法難思。故有偈云

T2023\_.48.1092c14: 假使頂戴經塵劫 身為床坐遍三千

T2023\_.48.1092c15: 若不傳法度衆生 畢竟 (決定) 無能報恩者 經之偈也

T2023\_.48.1092c16: 傳法有五 一受持 二看讀 三諷誦 四

『緇門警訓』(しもんけいくん)は中国明代の禪籍で、成立は不明な点もあるが用いられてきた歴史は長い。「緇門」とは「緇」は「くろぎぬ」で僧侶を表し、「門」とは「仏門」のこと。先哲の垂誡・遺訓を196篇集めたもの。編集者が如曇(じよん)という名。この『緇門警訓』は全十巻なので『大論』とされていたものかもしれない。そして『緇門警訓』は、經の如く受け止められていたのであろう。故にこの引文の最後に「經之偈也」と慧空がしているのであると思える。参考としてに示した

大方廣佛華嚴經疏 (澄觀撰) 卷第十五

T1735\_.35.0617a08: 小恩常懷大報。不知恩者。多遭橫死。故經

T1735\_.35.0617a09: 云。假使頂戴經塵劫。身為床座遍三千。若

T1735\_.35.0617a10: 不傳法利衆生。畢竟 (決定) 無能報恩者。故唯自

この澄觀は、唐代中期の僧で華嚴宗第四祖。諸教融合を目指した澄觀のこの著述が最も古いようだ。華嚴經のどこかに、澄觀のこの言葉を引きだす事があるのかもしれない。なお、両方とも「畢竟無能報恩者」なので、原文の「畢竟」を「決定」に慧空が書換えたようだ。

## 5-2 ○和尚云

往生禮讚偈 (善導集記) 一卷

T1980\_.47.0442a05: 南無至心歸命禮西方阿彌陀佛

T1980\_.47.0442a06: 自信教人信 難中轉更難

T1980\_.47.0442a07: 大悲傳普化 眞成報佛恩

T1980\_.47.0442a08: 願共諸衆生 往生安樂國

この引文は「和尚云」となっているが、この「和尚」は善導和尚。

## 5-3 ○無上依經下云

佛說無上依經 (眞諦譯) 卷下

T0669\_.16.0477a15: 提婆達多爲最上 一切衆生施菩提

T0669\_.16.0477a16: 我今不能見正行 修此持報世尊恩

T0669\_.16.0477a17: 若人已到無餘滅 此人猶未報佛恩

T0669\_.16.0477a18: 若人能行佛正行 是人唯修自利法

T0669\_.16.0477a19: 世尊疲極爲衆生 無上深恩云何報

T0669\_.16.0477a20: 世尊宣說眞自法 令人自行教化他

## 5-4 ○念佛三昧經六云

菩薩念佛三昧經 (功德直譯) 卷第五 經典そのものは全五巻。

T0414\_.13.0824b08: 若人欲疾得 寂定菩提道

T0414\_.13.0824b09: 爲諸衆生故 修行此三昧

T0414\_.13.0824b10: 敷演淨妙法 施彼一切樂

T0414\_.13.0824b11: 是人則與佛 同其大悲心

T0414\_.13.0824b12: 爾時慈行佛般涅槃後。有一比丘名曰樹王。

### 5-5 ○大集十三云

大方等大集經 (曇無讖譯) 卷第十五

T0397\_.13.0105c26: 法是爲魔業。不知報恩是爲魔業。不進求諸

### 5-6 ○又云

大方等大集經 (曇無讖譯) 卷第十五

T0397\_.13.0105c19: 生生異想是爲魔業。行施望報是爲魔業。爲

なぜ5-5の引文よりも前の行にある引文を後に出すのかは疑問。

### 5-7 ○定善義云

觀無量壽佛經疏 (善導集記) 定善義卷第三

T1753\_.37.0263c24: 身命急爲說之。若得一人捨苦出生死者。

T1753\_.37.0263c25: 是名眞報佛恩。何以故。諸佛出世種種方便

5-8 慧空の私釈 特定の經・論・釈を出ださず。

### 5-9 ○念佛三昧經四云

菩薩念佛三昧經 (功德直譯) 卷第四

T0414\_.13.0816b05: 又不空見我今略說一切諸佛所說三昧。應 (念仏三昧)

T0414\_.13.0816b06: 當勤修念報佛恩。學三昧已。即得不退阿耨

T0414\_.13.0816b07: 多羅三藐三菩提。而是菩薩以大智力。能爲

慧空は引用の一行目の經典の文字「應」の所を小文字で「念仏／三昧」と縦二行で入れている。なぜ？

### 5-10 ○坐禪三昧經上云

坐禪三昧經 (鳩摩羅什譯) 卷上

T0614\_.15.0277b03: 世。則無人道天道涅槃之道。若人香華供養。

T0614\_.15.0277b04: 以骨肉骨髓起塔供養。未若行人以法供養

T0614\_.15.0277b05: 得至涅槃。雖然猶負佛恩。設當念佛空無所

T0614\_.15.0277b06: 獲。猶應勤心專念不忘以報佛恩。何況念佛

T0614\_.15.0277b07: 得諸三昧智慧成佛。而不專念。是故行者。常

T0614\_.15.0277b08: 當專心令意不散。既得見佛請質所疑。是

T0614\_.15.0277b09: 名念佛三昧除滅等分及餘重罪

この「乃至」してある2行分ほどが、なぜ乃至されているのかは判らない。

### 6-1 ○大論七云

大智度論 (龍樹造 鳩摩羅什譯) 初品中佛土願釋論第十三卷第七

T1509\_.25.0109a28: 功德利。譬如大臣特 (時) 蒙恩寵常念其主。菩

T1509\_.25.0109a29: 薩亦如是。知種種功德無量智慧皆從佛



T1509\_.25.0109b01: 得。知恩重故常念佛。汝言云何常念佛不

## 6-2 ○般舟云讚

依觀經等明般舟三昧行道往生讚 (善導撰) 一卷

T1981\_.47.0450b09: 般舟三昧樂願往生 相續念佛報師恩無量樂

## 6-3 ○禮讚釋雜修之失云

往生禮讚偈 (善導集記) 一卷

T1980\_.47.0439b25: 故。懺悔有三品。一要二略三廣。如下具說。

T1980\_.47.0439b26: 意用皆得。又不相續念報彼佛恩故。心生

T1980\_.47.0439b27: 輕慢。雖作業行。常與名利相應故。人我自覆。

あるいは……

集諸經禮懺儀 (知昇撰) 卷下

T1982\_.47.0467a22: 愧懺悔心故。懺悔有三品。一要二略三廣。如

T1982\_.47.0467a23: 下具說。隨意用皆得又不相續念報彼佛恩

T1982\_.47.0467a24: 故。心生輕慢。雖作業行常與名利相應故。人

どちらからの引文かは、判断できず。「禮讚」という事から、善導の特定は難しいかもしれない。著されたのは善導大師の『往生礼讚偈』の方が知昇の『集諸經禮懺儀』よりも古いという事だそうで、『集諸經禮懺儀』は善導大師の『往生礼讚偈』を引用していると考えの方が妥当だろう。しかし、慧空が「禮讚釋雜修之失」という言葉を引文の趣旨として記している時に、そこに「間違いなく善導大師の著述」とであるという背景・雰囲気、私には感じられない。突き放している言葉に感じる。その点を思うと、引文元は『集諸經禮懺儀』かもしれない。

ちょっと厄介なことだが、慧空の言葉で「又不相續念報彼佛恩故」の前に「禮讚釋雜修之失」とあるのだが、この「雜修之失」という言葉は『選擇傳弘決疑鈔』(良忠述)のみにある言葉のようだが……。『慧空の常識』としての言葉が使われたのかも知れぬ。

## 6-4 ○偈文云

顯淨土眞實教行證文類 (親鸞撰) 「行卷」「正信偈」

T2646\_.83.0600b05: 憶念彌陀佛本願 自然即時入必定

T2646\_.83.0600b06: 唯能常稱如來號 應報大悲弘誓恩

T2646\_.83.0600b07: 天親菩薩造論說 歸命無礙光如來

「偈文云」となっているが、「往生禮讚偈」ではなく親鸞の『教行信証』「行卷」の最後部に出されている「正信念仏偈」の偈文。「往生禮讚偈」等他の偈文に直接この言葉はない。

## 6-5 ○大悲經三云

大悲經 (那連提耶舍譯) 卷第三

T0380\_.12.0958a23: 最後盧遮如來。如是次第汝應當知。阿難於

T0380\_.12.0958a24: 我法中但使性是沙門汚沙門行。自稱沙門

T0380\_.12.0958a25: 形似沙門。當有被著袈裟衣者。於此賢劫彌

T0380\_.12.0958a26: 勒爲首。乃至最後盧遮如來。彼諸沙門如是

T0380\_.12.0958a27: 佛所。於無餘涅槃界次第當得入般涅槃。無

T0380\_.12.0958a28: 有遺餘。何以故。阿難。如是一切諸沙門中。乃

T0380\_12.0958a29: 至一稱佛名一生信者。所作功德終不虛設。

T0380\_12.0958b01: 阿難。我以佛智測知法界非不測知。阿難。所

慧空の文では「沙門行□□□□自称沙門」の空白四文字分がある。引文元の經典には無し。空白不要。

引文中2ヶ所の「乃至」があるが、いずれも引文元經文にある「地の文」。

引文の「當有彼袈裟」の「彼」は「被」の上記經文が正。「書下し文」では、その補正をした。

## 6-6 ○同五云

大悲經 ( 那連提耶舍譯 ) 卷第五

T0380\_12.0971a22: 乃至發心作少善根種諸種子。聞佛如來說

T0380\_12.0971a23: 諸妙法。深解義趣憶念如來。心生愛敬有攷

T0380\_12.0971a24: 淚者。長歎者毛豎者。若墮地獄畜生餓鬼。無

T0380\_12.0971a25: 有是處。若於菩提不得究竟。亦無是處。阿

同文引用が ( 本 : 27-3 ) にもあり。引用意義未詳。「攷」は「ぬぐう」。日本文字になし。

## 6-7 ○觀念法門云

觀念阿彌陀佛相海三昧功德法門 ( 善導集記 ) 一卷

T1959\_47.0028a26: 又敬白一切往生人等。若聞此語。即應聲悲

T1959\_47.0028a27: 雨淚。連劫累劫粉身碎骨。報謝佛恩由來。稱

T1959\_47.0028a28: 本心。豈敢更有毛髮憚之心。又白諸行人等。

## 6-8 ○智覺禪師萬善同歸集上云

萬善同歸集 ( 延壽述 ) 卷中

T2017\_48.0982b04: 得生天。常識宿命。或懷慚抱愧。常生慶幸之

T2017\_48.0982b05: 心。識分知恩。恒起報酬之想。雜阿含經云。爾

『萬善同歸集』は、北宋初の僧侶の永明延壽の著述。永明延壽と知覺禪師は同一人物。他にも同一表記の「知覺禪師」は1300年代の人など日本出身で2名ほど名の残っている僧侶があるようだ。申し訳ないが、浄土系も十分ではないが、お他宗の人物をほとんど把握できていない。

## 6-9 ○禪林寺往生講式云

往生講式 ( 永觀撰 ) 一書

T2725\_84.0882a11: 厚結緣於彌陀深悲願於我等。靜思往昔

T2725\_84.0882a12: 結緣之厚心念念在恃。倩思大悲誓願之

T2725\_84.0882a13: 深淚連連不留。實四十八大願併爲衆生。

T2725\_84.0882a14: (阿) 僧祇劫苦行偏爲我等也。何彌陀發難發

T2725\_84.0882a15: 之願引接我等。何我等遇難遇之願不念

T2725\_84.0882a16: 彌陀。速拋萬事一心稱念。悲願是深。引接

T2725\_84.0882a17: 何疑。抑一生終有限。長別此界時想像。彌

引文中「何彌陀發難發」とあるが、「何彌陀」は「阿彌陀」でもいいのか。これは慧空の誤写ではなく永觀の文がそのように伝わっているのだが。浄土宗西山禪林寺派の総本山の第7世が永觀律師の名にちなむ「永觀堂」でも有名。

最後の引文が「引接」の永觀の文なのかね。『教行信証』からの引文で終わらぬことに、私には無念さが残る。

7-1 慧空私釈 特定の経・論・釈を出ださず。

7 附録

7-2 ○華嚴經二十二云

大方廣佛華嚴經 (佛駄跋陀羅譯) 卷第二十一

T0278\_09.0534b11: 梵行。得到彼岸。何以故。菩薩若自不修梵

T0278\_09.0534b12: 行。令他淨修梵行。無有是處。菩薩自退

T0278\_09.0534b13: 梵行。令他具足梵行。無有是處。菩薩自破

T0278\_09.0534b14: 梵行。令他安立梵行。無有是處。菩薩自離

T0278\_09.0534b15: 梵行。令他立梵行道。無有是處。菩薩自滅

慧空の引文に、この分の最後に「広説」とあるが、そのままでは見つからない。同じような「あるべからざる状況」が多く説かれているので、「広説」と慧空はしたか。

7-3 ○又云

大方廣佛華嚴經 (佛駄跋陀羅譯) 卷第二十一

T0278\_09.0534b27: 他修忍。以諸善根調伏其心。菩薩自離疑

T0278\_09.0534b28: 悔。令他離諸疑悔。菩薩自得歡喜信心。令

T0278\_09.0534b29: 他得不壞信。菩薩自行堅法。令他行堅法。

ここにも引文の最後に「広説」がでてくる。前項と同様。

7-4 ○同廿四云

大方廣佛華嚴經 (佛駄跋陀羅譯) 卷第二十四

T0278\_09.0549a12: 善法。示正行處。何以故。若人自不行善。爲

T0278\_09.0549a13: 他說法。令住善者。無有是處。又深思惟

「讚佛慈悲集」末 (「解報其恩」の引文確認は以上)

「讚佛慈悲集」全文の引文確認を終了

最後の引文が永観の文で締めくくる「讚佛慈悲集」は、江戸時代の本願寺 東（現・真宗大谷派）の初代講師とも言われる光遠院慧空（寛永 21 年（1644）5 月 15 日～享保 6 年（1722）12 月 8 日）の著述である。この「讚佛慈悲集」において、慧空の受けとった浄土真宗の底が見えている。

浄土宗の名刹・禅林寺第七世永観律師の撰による「往生講式」の「弥陀引接」を、「他力」を問題にする「讚佛慈悲集」の最後に、浄土真宗の「講師」たる人が持つてくるようでは、その著述が真宗大谷派の教学の歴史に残る著述にはならないでしょう。

だからこそ今、その「他力」ということを明らかにする時である。そういうところに眼を向けて、改めて「親鸞の真宗門徒」として、親鸞の視点から「浄土真宗における他力」を学び直す切っ掛けを、この「讚佛慈悲集」から始めたい。この「讚佛慈悲集」を世に出した慧空と、現代においてこの書に目を向けた宗正元先生（令和 2 年 5 月 20 日に逝去）に謝意を表明しながらも、「浄土真宗における他力」が、より明らかになることを念じながら、資料としての「讚佛慈悲集」を公開しているつもりである。

なお、『讚佛慈悲集』は、この原本以外に「享保三年刊行」のもので、「讚佛慈悲集」と「説聽要文」とを含んだものが出ているそうだが、それとの照合は一切していない。若く意欲ある人に、「貞享四年刊行」との異同を検討することを期待する。

（大竹 記）

## 「讚佛慈悲集」本・末の引用文献の確認

発行：仮立舎 188-0003 西東京市北原町 1-6-9

メールアドレス：keriusha@minos.ocn.ne.jp

確認者：大竹 功（真宗大谷派・遍立寺衆徒）

校了日：令和 3 年（2021）9 月 15 日

原本：『讚佛慈悲集』

「讚佛慈悲集」本 「讚佛慈悲集」末 貞享四年四月十五日 慧空の識入り

「説聽要文」

「感嘆鈔」 貞享五年改元元禄元年十月八日 慧空の識入り

この 3 点が合本になっているが、「讚佛慈悲集」本・末のみを取り上げた。

確認に使用した経典：

SAT 大正新脩大藏經テキストデータベース 2015 版

「讚佛慈悲集」を学習資料とする 7 点セットの無料公開

これらは、このホームページの「浄土真宗の他力考」の資料リストに掲載してあるもの 7 点を、インターネットでダウンロードし、各自で自由に印刷できるようにした。

もし誤植や問題点を発見された場合、上記メールアドレスにご連絡頂けると幸いです。



